



あなたのカルデアは催眠おじさんに乗っ取られました

Presented
by 530

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

「せ…先輩…」

「いや〜キミのカルデア
良いコ揃ってるね〜♡
期待以上だよお」

「あ、とりあえずマスター登録は
僕に変えさせてもらったから♡
キミが人質だって知ったら
みんなとっても素直だったよ(笑)」

もみ

もみ

「キミのサーヴァントは
み〜んな僕の言うことに
絶対服従の性奴隷に
なっちゃいました(笑)」

「ごめんなさい…
私の力及ばず…
先輩を守れなくて…」

ギン



「でも安心してくださいー！
必ず…助け出してみせますから…っ
そこで待つて…んっ♡いてくださる」

「はいはい、最初はみんな
そういうんだよ(笑)」

「というわけで
これから一人ずつ
ち○ぽで墮として
いこうと思いまっす♡」

「まずはキミの一番
大事な後輩ちゃんから♡
マシユちゃんは処女？
腕よりぶつといち○ぽに
耐えられるかな(笑)」

ガッ
ガッ

「私は…あっ♡ふっごんな
卑劣な男性に屈したりしません…っ
私は先輩の—」

「はいはいそごまでっ
ほらせックスするよ
マシユちゃん♡」

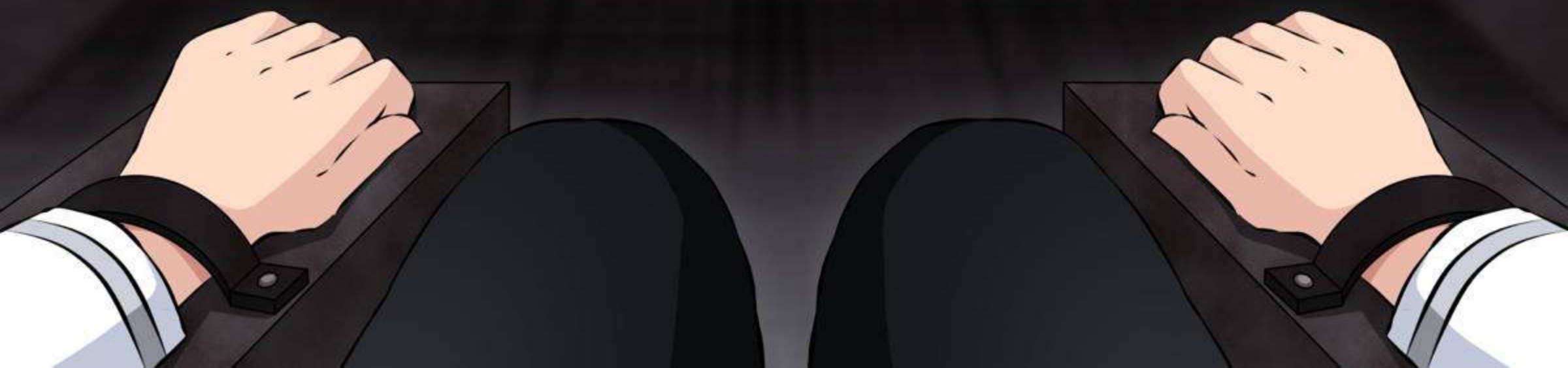


「な——」

目が覚めたら薄暗い
地下室にいた…
身体は拘束され、
目の前にはひとつの
大きなスクリーン…

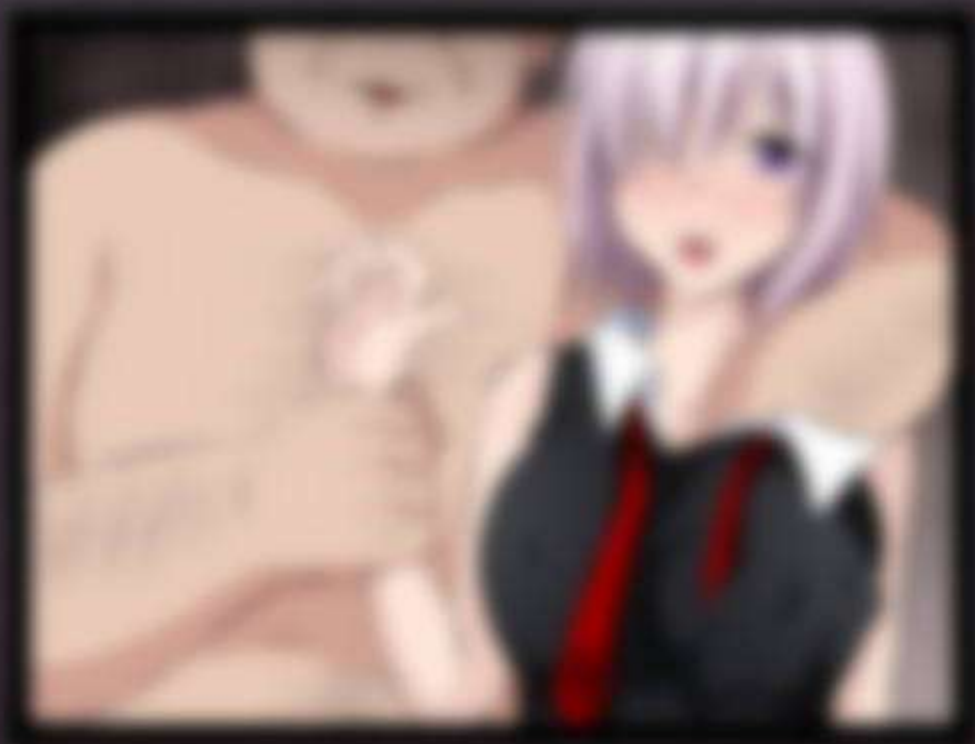


そこに映し出されたのは
見たこともない男に
身体をまさぐられる
大切な後輩の姿だった…



腕からは令呪が消え、
サーヴァントたちとの
繋がりも感じられない…

男の言う通り、
本当にマスター権を
奪われてしまった
ようだった…



この映像はいつ撮られた
ものなのだろう？
それともリアルタイム
なのだろうか…？
すぐに彼女を助けに
行かなければ…!!

「くそ…っ!!
マッシュ…っ」

がチャ

がチャ

しかし身体は
微動だにしない…!!
そうしている間も
映像は流れ続ける—

「……」

「はは、ダメだよ
抵抗したつて
無駄無駄(笑)」

「僕は前のマスター
みたいに甘くないよ。
性奴隷はご主人様に
絶対服従！」

普通の契約より全然
強力な洗脳催眠で
霊基を支配してるん
だから
僕の言うことには
絶対逆らえないよ♡」

「ほら教えた通り
いやらしく
おねだりして♡
大人の女になるとこ
マスターくん
見せてあげちゃお♡」

「く」
（本当に……!!
この男の一言一言に令呪で
命じられたような強制力を
感じる……!!
この男が言ってることが
正しいような錯覚まで……
気をしっかり持たなけれ
ば……!!）

ぐぐぐ

「ま、マシユ・キリ○ライトは
ご主人様の性処理専用
存在するデミ・サーヴァント
です…♡」

「どうかご主人様の
遅いおち○ほ様で…
私の未熟な処女ま○こに
オナホとしての役割を
教え込んでください…っ♡」

「よしよし♡
イイコだなあ♡
マシユちゃんは♡」



「それじゃあ…」



ちゅん♡
♡
♡



「遠慮なくっ」

「はっ」



っっっ!!

「うひひっ♡
マシユちゃんの処女
ゲツトおろ♡♡
プチプチつと膜を破る
感触がち○ぽに
気持ちいい♡♡」

っっっ!!

ゼッ

ゼッ

「でも僕はもうと可愛ら
悲鳴が聞きたいん
だよな〜……♡
おらいケっ(笑)」

「必死に声ガマン
しちやつてホントに
健気な後輩だね〜♡」

ちっ



おっ
おっ

おほ
おほ

が
が

が
が

が
が

お
お

「ひっひっ♥華奢な身体
跳ね回らせて陸内
痙攣させちやつて♥

初めてでこんな快楽
知っちゃつたら
もう戻れないんじや
ない?(笑)」

「これでわかつたでしょ
絶対服従の意味♥

身体はもうとつづくに
ボクの言いなり♥
快楽に堕ちれば堕ちる
ほど心も支配されて
いくからね」

「んほほ♥
派手にイッてるね♥
初めてのセックス
そんなに気持ちいい?

マシユのま○こもイイよ
今まで喰つてきた処女の
中でもかなり上の方♥」

が
が

「はは…ホントに前のマスターが好きだったんだね、マシユは♡」

せっせっ
はははははは

がっ

「でも無駄だよ、あのガキ一人じゃ何もできないし(笑)」

「それ…に…今のマスターはボクでしょ?」

がっ

がっ

ちっ
ちが

「ああ、安心してわかってるから♡前の男が忘れられない困ったちゃんなマシユのためにちやんと洗脳してあるから♡」

「僕に膣内射精される度に前のマスターへの気持ちが消えて♡その分ボクのヨトが好きになるようにね♡」

あああ
お

「おほっ♡一段と
締まりが…っ♡
マシユはそういうの
が好きなんだね♡
将来有望なマゾ
気質だなあ♡」

がっ

がっ

がっ

やっ
やっ
やっ
はん
はん

がっ

「ほれほれ、抵抗しろ、
射精しちやうぞ、
このまま膣内射精
しちやうぞ、」

いいのかな？
前のマスターもコレ
見てるのにな」

「ひっひっ♡
あゝ射精そう♡
射精すぞお…っ♡
元マスターが見てる
前で♡
マシユに初めての
膣内射精…っ♡♡」



「セセ」

セセセ

ドクドク

ドクドク

「お♡いいいねいねいね♡
イイ感じにキマってるね♡♡」

魅了♡

ズグジュ〜

魅了♡

魅了♡

魅了♡

お

魅了♡

お

「頭の中書き換えられてる
みたいでしょ?」
処女奪われて膣内射精
されて弱ったところに
つけ込む洗脳催眠♡」

「ほらほら抵抗しなうで
身を任せて♡」

お

「前のマスターのコト
なんかせうんぶ忘れて
心もボクのものに
なつちやうなより♡」

せ

永続魅了【解除不可】

「はいの終わり〜♡
けつこう頑張ったけど
洗脳催眠に耐えられる
わけないじゃん(笑)」

「洗脳前にどれだけ
好きだったかで耐えられる
回数が変わるからね♡
さあここで二人の愛が
試される〜(笑)」

「さてここでのこの映像を
見てる元マスターくんは
問題です(笑)
マシユちゃんはまだ
君への気持ち覚えてる
でしょ〜か?」



魅了

魅了

魅了

キュン

キュン

キュン

あ

永続魅了【解除不可】

せむせむ

「おつとこれは……!!
さすが長い旅をともに
してきたパートナー(笑)
まだまだ余裕のようです♡」

「これからじっくりくり
時間をかけて墮として
やるからな♡
覚悟しろよ」

「ホントにイイ後輩だな♡
ますます欲しくなつて
きちやつたよお♡♡♡」

「マシユ……
ふーっ
マシユ……ッ」

男への怒り…彼女を
助けなければという焦り…
そんな思いとは裏腹に
俺は勃起していた…



マシユのあられもない姿…
見たことのない彼女の表情…
抑えようと思えば思うほど
股間は情けなく張りつめていく…っ

一度の膣内射精でこんな…
もしこの映像が何週間も前に
撮られたものだとしたら…
今頃マシユは…!?

が
チャ

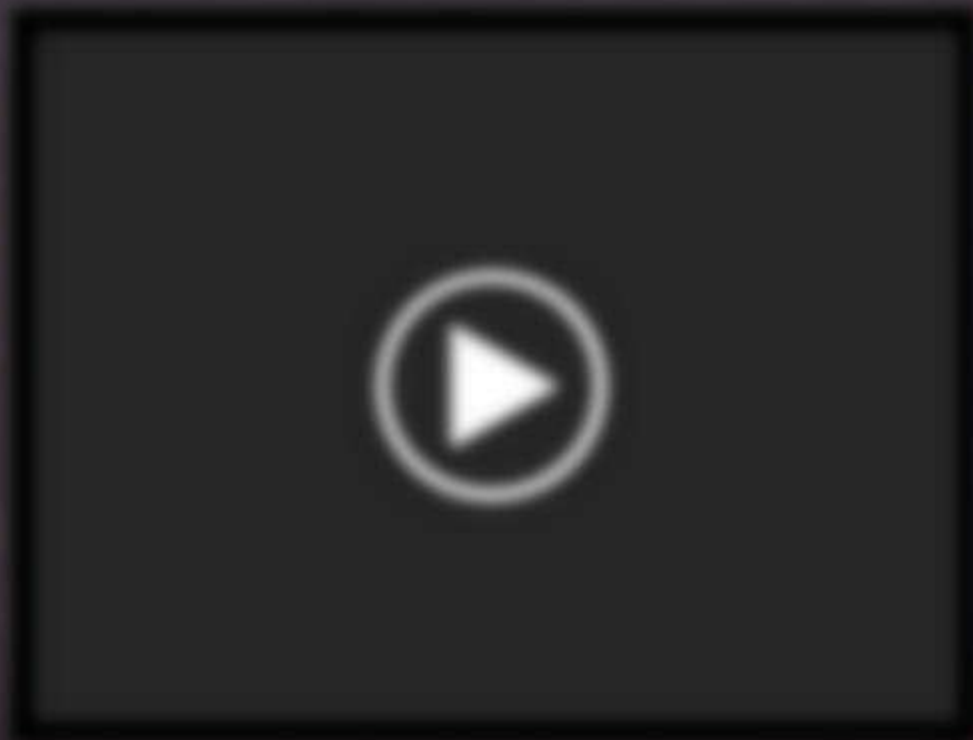
が
チャ

「くそ…っ
くそ…っ」





引き千切れんばかりに
腕を動かすが
全くの無駄だった…



何もできないまま…
次の映像が始まった—

が
チャ



が
チャ

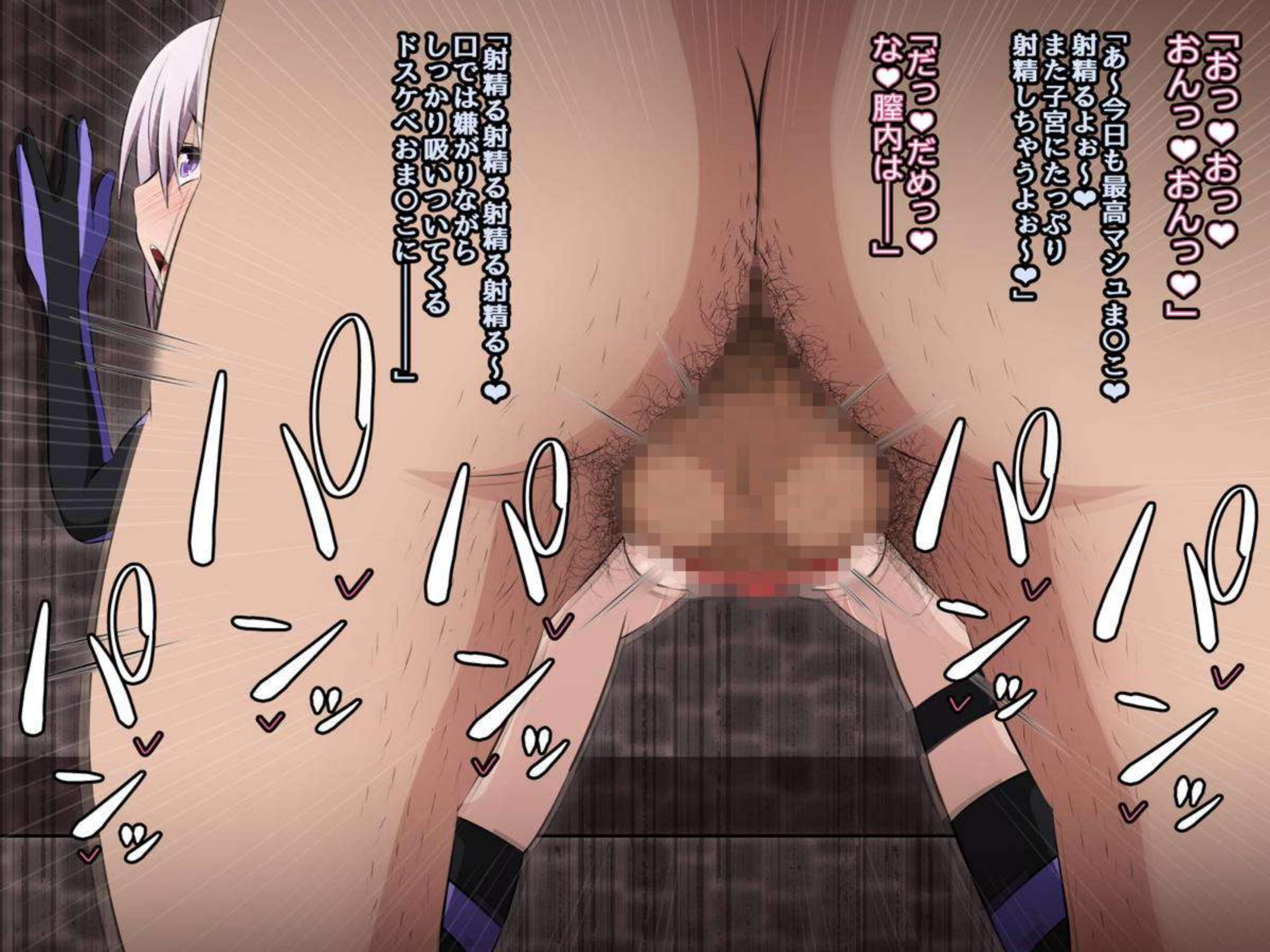


「おっ♡おっ♡
おんっ♡おんっ♡」

「あゝ今日も最高マキシムま○っ♡
射精るよおゝ♡
また子宮にたっぷり
射精しちやうよおゝ♡」

「だっ♡だめっ♡
な♡膈内は」

「射精る射精る射精る射精るゝ♡
口では嫌がりながら
しっかり吸いついてくる
ドスケベおま○こに」



♡ 永続魅了+7【解除不可】

ズグググ
ググググ
ググググ

「だ♡あ♡だめ♡
ふぐ♡うう♡
せんぱい♡♡
先輩♡♡♡」

「ほ♡ほほ♡
ちよつとマシエちゃん
締めつけすぎ(笑)
おち〇ぽ抜けないよ」

グセ
チル
グググ

お
グセ
グググ



「ふうーっ♡♡♡
ふうーっ♡♡♡」

「さて今日も
ステータス更新
完了っ♡
どうかなく僕の
マシユちゃん♡」

「……わ♡
私……は……ご……し……ゆ♡
あ♡貴方……の……もの……じ……や
あり……ま……せん……っ♡
私……は……あ……の……人……先……輩……の……
サ……ー……ヴ……ア……ン……ト……で……え……♡」

「おお♡まだ耐える〜？
無理は身体によくないよ〜」

ブゼ
セ
ツ
ブゼ
セ
ツ

ブゼ
セ
ツ
ウ
チ
ル
ツ
ウ
ウ
ル
ツ

「む♡無理なんか……っ
私は貴方のような男には
屈しないと……」

「まあいいや(笑)
じやあ今日はその先輩くん
にメツセージよろしくね〜
教えた通りに言うんだよ♡」

「あ♡はっはっ♡」



「あ…先輩♥おはよう
ございます…♥」

先輩は続けて映像を
見ているでしょうが…
初めてご主人様に
レイプしていただいた
あの日から一週間が
経ちました…♥」

「私は…その…『二日二発
マシユの洗脳ゲーム』…
ということとで…
毎日朝イチに二発ずつ
特濃三番搾りザーメン
を膣内射精して
いただいています♥」

「朝勃ちち○ぼが
お世話になってます」

ど

る

「一体何日目に先輩への
気持ちをなくして…
ご主人様ラブ♥になるか
…愉しみ…ですね♥」

「僕の予想は三日だったん
だけど…キミの後輩
予想以上に頑張ってるよ」

「カルデアが乗っ取られて
一週間…もちろん
私以外のサーヴァントも
調教が進んでます♥」

「彼女たちの様子も特別に
見せてあげますから…
情けない寝取られち○ぼ
しっかりおっ勃てて♥
目に焼き付けてください
ね♥」

「……は、い、よくできました♡
最後に何かマシユちゃんから
言いたいことはあるかな？」

「……先輩……
救助が遅れてしまって
すみません……
洗脳催眠は思ったより
解除が難しく……♡」

ど

る

「で……でも安心してください。
どんなに時間がかかっても
先輩のコトは必ず救い出して
みせますから♡」

「そんなこと言ったら
この一週間セックスしか
してないよ(笑)
膣内射精は二日二回だけと」

「……この男の言のト
になんか惑わされないで
ください♡
いくら彼に膣内射精♡され
ようと……私は先輩への
気持ちをなくしたり
しません……っ
気を強くもって……
待っていてください……♡」

「はいはい(笑)
ぐだぐだとごめんね♡
元マスターくん♡
じゃあお待ちかねの次……
イツてみよ」

【ご注意】

酒呑ちゃん編には歯なし描写があります。
(ファイルNo.【201】および【602】)

苦手な方はご注意ください。

「は〜い、というわけで今日のお相手は酒吞ちゃんです♥
きちんとお家にハウスできて偉いね〜」

「……喧しい。
気安う角に触らんとすん」

「お〜こわ(笑)
酒吞ちゃんはペットのくせに
生意気なんだよな〜
未だに反抗的な目を向けてくるし…」

元マスターくん、
キミの教育どうなってるの?」

みち

しゅてんのおうち

「旦那はんはあんたみたいなの下衆とは違うんや。今に見てみい…必ず思い知らせてやるさかい。噛み砕かれとうなかつたら今のうちに——」

「仕方ないからキミの代わりにボクが教育してあげてるんだよ」

「まずは今日もその悪いお口からおしおきだね♡」

「……」

みち♡

しゅてんのおうち



「あ、心配しないで？
生意気な口はきいてるけど
身体は全く抵抗できないし
そ・れ・に——」



みちゅ♡♡

しゅてんのおうち

「あ、心配しないで？
生意気な口はきいてるけど
身体は全く抵抗できないし
そ・れ・に——」

「危ない牙は抜いちやっただから
僕のち○ぽは安全だよ♡
ついでに他の歯も全部(笑)」

「こんなお口でどーやって
噛み砕くんだらうね(笑)」

「んんん」

おはあ

「ひひ♡ フェラ専用改造した
お口ま○ご気持ちよさそ♡」

みち

しゅてんのおうち

「ペットにした鬼の扱い方を
これから教えてあげるから
しっかり見てるんだよ♡
元マスターくん♡」

「はい酒吞ちゃん
ち○ぽにチュ〜♡」

「〜♡
♡ちゅ〜♡」

み

ちゅっ♡

「うひひ♡
そうそう、ご主人様への
愛を込めてね〜(笑)」

「〜♡」

「じゃあ酒吞ちゃんの
お口オナホの使い方を
説明します♡」

まず鬼には頭に便利な
ハンドルがついてるので
がっちり掴みます」

「体勢は自由です。
鬼はとっても丈夫なので
どんなに負担をかけても
大丈夫♡」

そしたら後はカシタン！
お口に当てがったち○ぽを
喉奥まで一気に〜」

「ねじ込むっ!!!」

ズ



ズ
ッ



「おっ♡おほっ♡
ほっ♡ほっ♡ほっ♡
ほほおっ♡」

キキキ
キキキ
ほっ♡

「ほほ♡これこれえっ♡
せまつせまの喉に
ち○ぽみっちりい♡」

全体重をかけて喉奥
抉ってもビクともしないっ♡
この耐久力が鬼オナホの
最大の魅力うっ♡♡」

ぬっ♡
ぬっ♡

ちゅっ♡
ちゅっ♡

「扱いやすい小柄な身体っ♡
まさにオナホになるために
生まれた生物うっ♡♡
おらどうだっ♡♡
人間様のち○ぽで
退治される気分はっ♡」

キキキ

ほっ♡
ほっ♡



「そうだ使い方っ♡
ひひ♡使い方
だったね♡」

ガクッガクッガクッ
風風風風

ちゅっちゅっ

「ちゅっする形のお口から
ち○ぽねじ込んで歯茎の
こりこりした感触を
愉しむのが抜歯フェラの
醍醐味だからねえっ♡♡」

「息ができないように
喉から抜かないのが
ポイントだよ♡
粘膜をこそぎ落とすよう
抉れたらなおグツド♡」

それからお口をきゅっつと
すぼめさせるのも
おすすめっ♡」

キキキキキキキキキキ
キキキキキキキキキキ

「おっ♡
おほっ♡」

ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡

「いひひ♡
こーやって酒呑ちやんが
酸欠になってち○ぽに
吸いつき出したら
ラストスパートっ♡」

ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡

ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡

ゼク

ゼク

ゼク

「必死に呼吸したがってる
酒呑ちやんにつ♡
空気の代わりにっ♡
ひひっ♡」

「こっつてり特濃精子をっ♡
胃にめがけて直接うっ♡」

ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡

ゼク

「排泄うっっっ」

ト

ア



「い♡ひひひ♡
吸われるう♡
金玉の奥にある分まで
吸われちやうう♡♡♡」

ゼゼ
ゼゼ

ブチ
ブチ

「あ♡ちのぽで
鬼退治♡最高♡
ひひひ♡
そんなに一生懸命吸っても
ちのぽからは精子しか
出ませんよ♡♡」

ちゅちゅ
ちゅちゅ

ゼ
フリ

ゼ
フリ



か
か
か
か
か
か
か
か
か
か

が

が

「あゝあゝ
また吐いちやつた(笑)」

「ひっひっ♡
いっぱい射精たなあ♡」

「ごめんね、
酒吞ちゃん
苦しかったね♡
あ、後でソレ
ちゃんと綺麗に
食べてね(笑)」

が

ご
ご
ご
ご
ご
ご

「さて…酒吞ちゃんも反省
してみただしこれで
悪いお口へのおしおきは
終わりかな。あとは—」

か
か
か
か
か
か
か
か
か
か

「舌のお口に
ご褒美だねっ♡」

ズッ

フッ

あ
お
お
お



「おほ♡キツう♡
酒呑ちやんの鬼ま○こ
ちつちええ♡♡」

み♡

ちい♡

がッ

がッ

「ひひい♡酒呑ちやんの中
僕のおち○ぽでいっぱいに
なつちやつたね♡
子宮の奥にある柔らかいのは
内臓かな？(笑)」

わは♡

「足首よりぶつとい
規格外ち○ぽを軽々
受け入れちやうなんて
さすが全身オナホの
低身長サーヴァント♡
今度はこつちから内臓
ごといつぱい愛して
あげるから気を
しつかりね♡」

あ♡



あゝ

「ふんっ♡ふんっ♡
ぶふっ♡あゝ酒呑
ちやんオナホ気持ち
いいっ♡♡」

あゝ
あゝ

「軽くて振るにも
ちようどいいし
このハンドルが
ホント便利(笑)」

ポポ
ポ

ぐ
っ
ち
や
ん

ぐ
っ
ち
や
ん

ぐ
っ
ち
や
ん

おん

「ちよ〜と睦の底が
浅いのが難点だけどおゝ
それも工夫次第だし♡」

「子宮の奥まで
「一気にぶち抜け
ぱあ〜〜♡」

びゅん

「いっやっで
勢いをつけて♡」

びゅん

ズキズキ

ズ
びゅん
びゅん





ほっほっ

「ほおくら
根元まで全部
入ったあっ♡」

ど
ら
ら
ら
ら
ら

ズ
ズ
ズ

ほっ

「ほおくら
根元まで全部
入ったあっ♡」

みぢぢ

がっ

メ

がっ

「あゝごめんね、
また息できなく
なっちゃったかな、
でも僕のち○ぽは
気持ちいいからね、
このまま続けるね、♡」

ズ
ズ

がっ

せーの
あーあ
あーあ

あー

「ふんっ♡ふんっ♡
ふんんうっ♡♡♡
おほく最っ高♡♡♡」

ぐちちやっ

「酒呑ちゃんオナホは
子宮回ぶち抜いてからが
本領発揮だよねっ♡♡
この薄うい子宮壁一枚
越しに感じる柔らかあい
内臓の感触っ♡」

とちゅ
ちゅ

とちゅ
ちゅ

とちゅ
ちゅ

「これをっ!!!
ち○ぽで押し潰すのが
気持ちいいんだあ♡」



「あ、ちなみには
酒呑ちやんには
子宮をち○ぽで
突かれるたびに
防御デバフが
かかるように
してまゝす(笑)」

防御カダウン
ドゥー

ぐぐぐ
ちちち
ちちち

ががが

防御カダウン
ドゥー

ちちち
防御カダウン
ドゥー

ましまし
ちちち

ちちち

じんじん
じんじん

「ほらほら、
酒呑ちやん早く
ご主人様のち○ぽ
イかせないと
どんどん防御力
下がってるよ、
人間並みになったら
死んじゃうよ(笑)」

「ひひひ、
このおねだり上手め、
おら射精すぞつ、
子宮ブチ破つてやから
死んで感謝しろつ、」



「おっ♡
ほほお♡
ちっちえ〜子宮袋の
中で精子排泄う♡
最高お♡♡♡」

「おっ♡
ほほお♡
ちっちえ〜子宮袋の
中で精子排泄う♡
最高お♡♡♡」

「おっ♡
ほほお♡
ちっちえ〜子宮袋の
中で精子排泄う♡
最高お♡♡♡」

「おっ♡
ほほお♡
ちっちえ〜子宮袋の
中で精子排泄う♡
最高お♡♡♡」

「おっ♡
ほほお♡
ちっちえ〜子宮袋の
中で精子排泄う♡
最高お♡♡♡」

「おっ♡
ほほお♡
ちっちえ〜子宮袋の
中で精子排泄う♡
最高お♡♡♡」

「おっ♡
ほほお♡
ちっちえ〜子宮袋の
中で精子排泄う♡
最高お♡♡♡」

「おっ♡
ほほお♡
ちっちえ〜子宮袋の
中で精子排泄う♡
最高お♡♡♡」

「は〜い♡というわけで
元マスターく〜ん
いかがだったでしようか〜
途中から置いてけぼりにして
盛り上がっちゃってごめんね〜(笑)」

「……………」

「酒呑ちゃんとはいつつも
こんな感じで鬼退治プレイを
楽しんでます♡」

あ、一応まだ生きてるから
安心して(笑)
あれだけ防御デバフかけた
のに〜
元が人間じゃないから丈夫なのかな？
鬼でよかったね〜酒呑ちゃん♡



「あ、ちなみに——」
「……………♡め……………」

「……」
「……」

「キミから貰ったサーヴァント
たちはみりんな受肉させた上で
弱体化してるから♡
こんな風に折っちゃった角は
二度と元に戻りませうん(笑)」

ゼゼツツ

ビッ

キッ

ギョッ

おっ

ゼゼツツ

おっ
はん

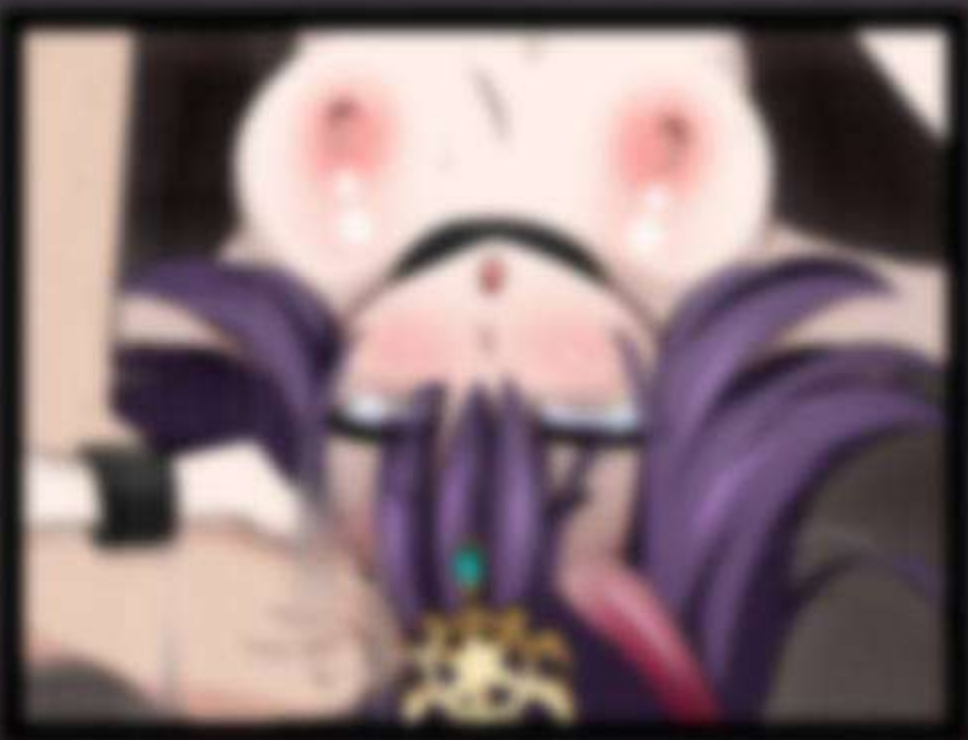
ギョッ

「酒呑ちゃんは少しずつつ壊して
愉しもうと思ってるから(笑)
使い潰して廃棄寸前になったら
もう一回見せてあげるので
お楽しみに♡」



彼女の角が
踏み折られた瞬間—
俺は射精していた…

触つてもいないのに
ズボンの中で…



そしてそれを見計らったように
すぐに次の映像が流れる…
一体いつまで続くんだ…



「お久しぶりです先輩♥
…と言つても、そちら下には
続けて映像が流れてくるの
でしょうか…
ともかく、こちらではアレ
から早一ヶ月が経ちました」

「アレってらうのはキミの
マシユちゃんが僕のモノに
なった日のことだよ(笑)」

「そんなこと…
自分のサーヴァントを
寝取られているのに
勃起したり
ましてや射精したり…
先輩がするはずあり
ませんっ♥」

「寒い監禁部屋で
私たちの寝取られ動画
を見せられ…
さぞお辛いでしょう？
救出が遅れている
ばつかりに…すみませ〜」

「いやいや、
案外興奮してる
かも…(笑)」

ギギン
ギン

おちんちん

たーゆんっ

「私は先輩の「ト信」で
いますから…
先輩も私の「ト信」で
待っていてくださいわね♥」

「ほらほら(笑)
それより今日はこれから
何するんだっけ?」

「今日は…これから
毎朝しているご主人様への
ご奉仕をさせていただきます♡」

…あっ♡
心配しないでください先輩♡
これは全部従っているふり…
ご主人様を油断させるための
作戦ですから…♡」

「それに良いことかも
あるんですよ♡
私に魅了が付与されるのは
膣内射精が条件なので…
お口に射精される分には
まったく問題ないんです♡」

「こっやっつて少しでも
金玉の中を減らしておけば…
…まあいつも結局膣内射精
されちゃうんですけど…」

ガギン
ガギン

「言い訳はもう
いいから(笑)
ほら早く始めて〜」

おちんちん

たーゆんっ

「はいご主人様♡
…それじゃあ
始めますね、先輩♡」

「おちんちん」

おちんちん

ヌグッ





ぶっちゅ

ちゅちゅ

ぶっちゅ

ぶっちゅ

ちゅちゅ
ちゅちゅ
ちゅちゅ

「ちゅちゅ」

ちゅちゅ

「ん〜いいよ〜
上手上手♡
上達したなあ〜♡
この一ヶ月
いっぱい練習した
もんね〜♡」

ズ

「んおんおん」

ちゅちゅ

ちゅちゅ
ちゅちゅ
ちゅちゅ

ぶちゅ

ぶちゅ

ぶちゅ

ズ



ちゅちゅ

「んおほおほ」

ちゅちゅ
はゅはゅ

すしゅ
ちゅちゅ
はゅはゅ

「わっ♡そっ♡ちゅちゅ♡
おほらっ♡はらご使用して♡
おちゅ♡は愛してあげて♡」

んっ♡

「んっ♡いいよっ♡
上手上手♡
上達したなあっ♡
この一ヶ月
いっぱい練習した
もんねっ♡」

ぶちゅ

はゅはゅ

ぶちゅ

ぶちゅ



ちゅちゅ

「んおほおほ」

ちゅちゅちゅちゅ
はゅはゅ

すけりゃるん
ちゅちゅちゅちゅ

「ひひ♡そりゃるん、
おほらっばらに使うて〜
おち○ほ愛じてあげて♡」

んっ

「んっいいよ〜
上手上手♡
上達したなあ〜♡
この一ヶ月
いっぱい練習した
もんね♡」

ぶちゅ

んっ

ぶちゅ

ぶちゅ

「マッシュちゃんの
初めてを奪って
くれたおち○ほ様
への感謝を込めて
ね♡」

ズチッ

グググ

ッロ

ッロ



「ぶひひ♡これこれえ♡
亀頭で喉チンコを感じながら
裏筋をペロペロされる♡
これぞ愛情フェラの醍醐味♡」

ッロ

グググググ
グググググ
グググググ

ずちゅ
ずちゅ
ずちゅ

「イラマチオでは感じられない
おち〇ぽを優しく包み込む愛♡
おっ♡おっ♡吸われるう♡」



ズチッ

ズチッ

「これはあ…」

ずちゅ
ずちゅ
ずちゅ

「本来あの元マスター
に向けられてた愛だと
思うと…ぶぶぶつ♡
最高お…♡
高まるう…♡」

「射精…」



ズブ〜





「射精…」

ゴッ

せせせ
せせせ
せせせ

ト
ト
ト

あ
あ
あ

ト

あ

あ

「不可避いっ♡」

ゴリッ

ドゼッ

「おっ♡おほお♡
射精るう〜♡
マシユちゃんの
お口に愛されて
精子漏れるう〜♡」

せせ
せせ
せせ

キキ
キキ
キキ

「飲んでっ♡
マシユちゃん飲んでっ♡
マシユちゃんのために
ご主人様が排泄してる
精子♡全部飲んでえ〜♡」

ト

母

ア

キキ
キキ
キキ

「あ〜最高の♡
マシユちゃんのお口
に精子ぶちまけるの
幸せ過ぎるっ♡

こんな愛情たっぷり
にご奉仕してくれる
なんて！ひひっ♡
一ヶ月洗脳し続けた
かいがあつた〜♡」

えはあ
んはあ
んはあ

「ひひひ
全部飲めたねっ
美味しかった？」

はは

ヌポオ

「ご主人様と
元マスター
どっちが好き？」

んはあ
んはあ

「うっん、もう少しかあ…
ホントにマシユちゃんの
キミへの想いは底が知れ
ないな…
精液飲んで下ろけてるくせに
羨ましいよっ先輩(笑)」

「でもその分コレが全部
僕の方へ向いたときを
想像すると…ひひひ
あゝ楽しみ♡」

「よっ♡
これからは口で二回くら
腔内射精しちゃおうかな！
ね、僕のマシユちゃん♡」

あははは
あはは

ヌポオ

「じゃあ元マスターくん、
そういうことだから♡
ちよつと本気で墮としに
かかりま〜す♡
次回のマシユちゃんに
ぜひご期待ください(笑)」

キユン

「あ、もちろん他の
サーヴァントも
忘れずに♡
アレから一ヶ月！
他のヨも大分洗脳
進んでるよ♡」

「それじゃあ次の
動画をどうぞ(笑)」

「やつほろ弟子いっ♡
見てるっ？」

「あんだとの契約が
なくなってるから
しばらく経つけど…
元気にしてる？
あたしは元気よ♡」

「おほろ三蔵ちゃんの
おっぱい柔らかっ♡
この身体で御仏がどうの
とか言われてもなっ(笑)」

あ

ん

もみ

もみ

もみ

たーゆん

「あ、というわけで
次は三蔵ちゃんの
ターンですっ♡」

「ほら三蔵ちゃん『元』弟子に
言う『ト』あるでしょ?」

「はいご主人様...♡」

「弟子い...あのね...」

あたし...あなたが捕まってる

間にご主人様のモノに

されちゃった♡

もちろん弟子がときどき

イヤらしい目を見てた

このおっぱいもね♡」

「ひひひ♡」

この柔らかかボディに指一本

触れたこともないとは

もったいないことしたね(笑)」

「言ってくれば...」

ボン

あ

もみ

もみ

もみ

たゆん

「もう君は絶対
できないんだよ♡
この罰当たりな
おっぱいをこんな風
に揉みしだいたり...」



「むしやぶら
ついたりねっ♡」

チュウっ♡

「ごんな風につっ♡」

あっ♡

「あゝ負けえっ♡
負けですっ♡降参っ♡
降参んうっ♡」

「ご主人様のちのぽに
勝てるわけありません
でしたあゝっ♡」

ブグ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

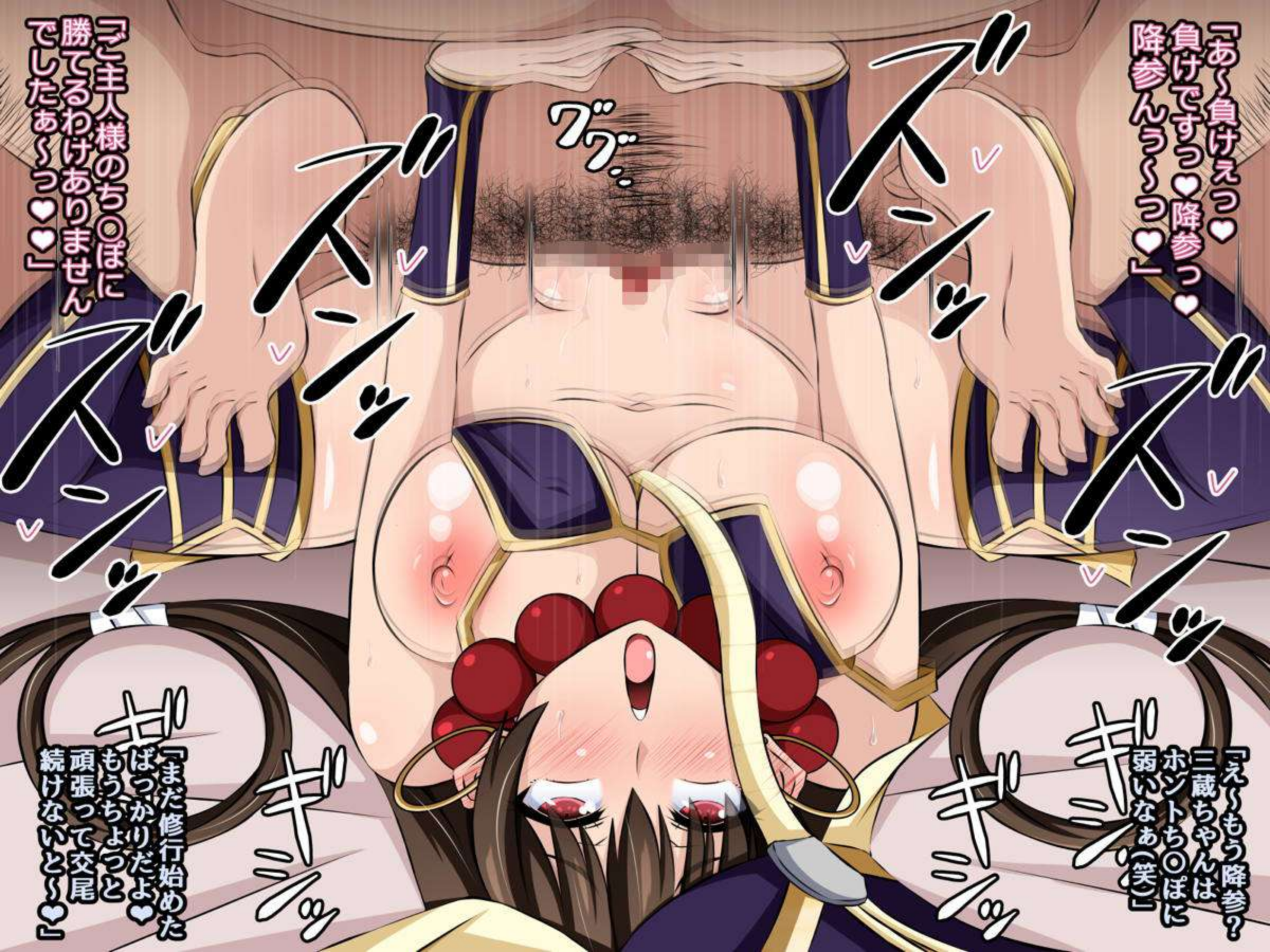
「えゝもう降参？
三蔵ちゃんには
ホントちのぽに
弱いなあ(笑)」

「まだ修行始めた
ばっかだよ♡
もうちよつと
頑張つて交尾
続けなと♡」

ギ
ギ
ギ

ギ
ギ
ギ

ギ
ギ
ギ



「ダメえっ♡
これダメなのお♡
おち○ぽでズンズン
されちゃうと
何も考えられなく
なっちゃううっ♡」

ブグ...

ズンズン

ズンズン

ズンズン

「カルデアも弟子もっ♡
全部どうでもよく
なっちゃうからあっ♡」

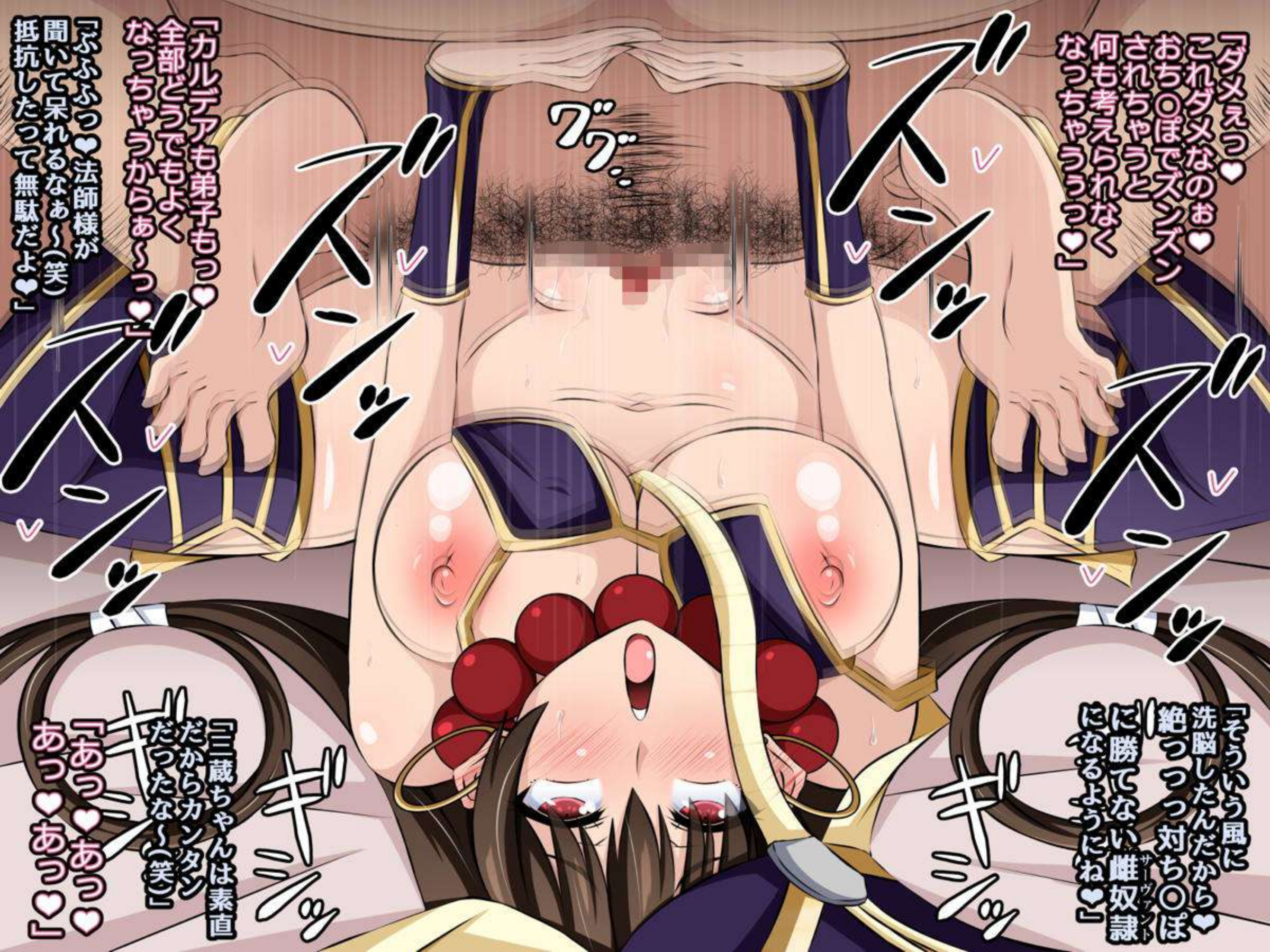
ズンズン

「あっ♡あっ♡
あっ♡あっ♡」

ズンズン

「そういう風に
洗脳したんだから♡
絶っつっつ対ち○ぽ
に勝てない雌奴隷
になるようにね♡」

「三蔵ちゃんは素直
だからカンタン
だったな♡(笑)」



「三蔵ちゃんだから
女の「コ」なんだから
ご主人様にち○ぽ
突っ込まれて
幸せになつてれば
いいんだよ(笑)」

「...うん」

「おはようございませう」

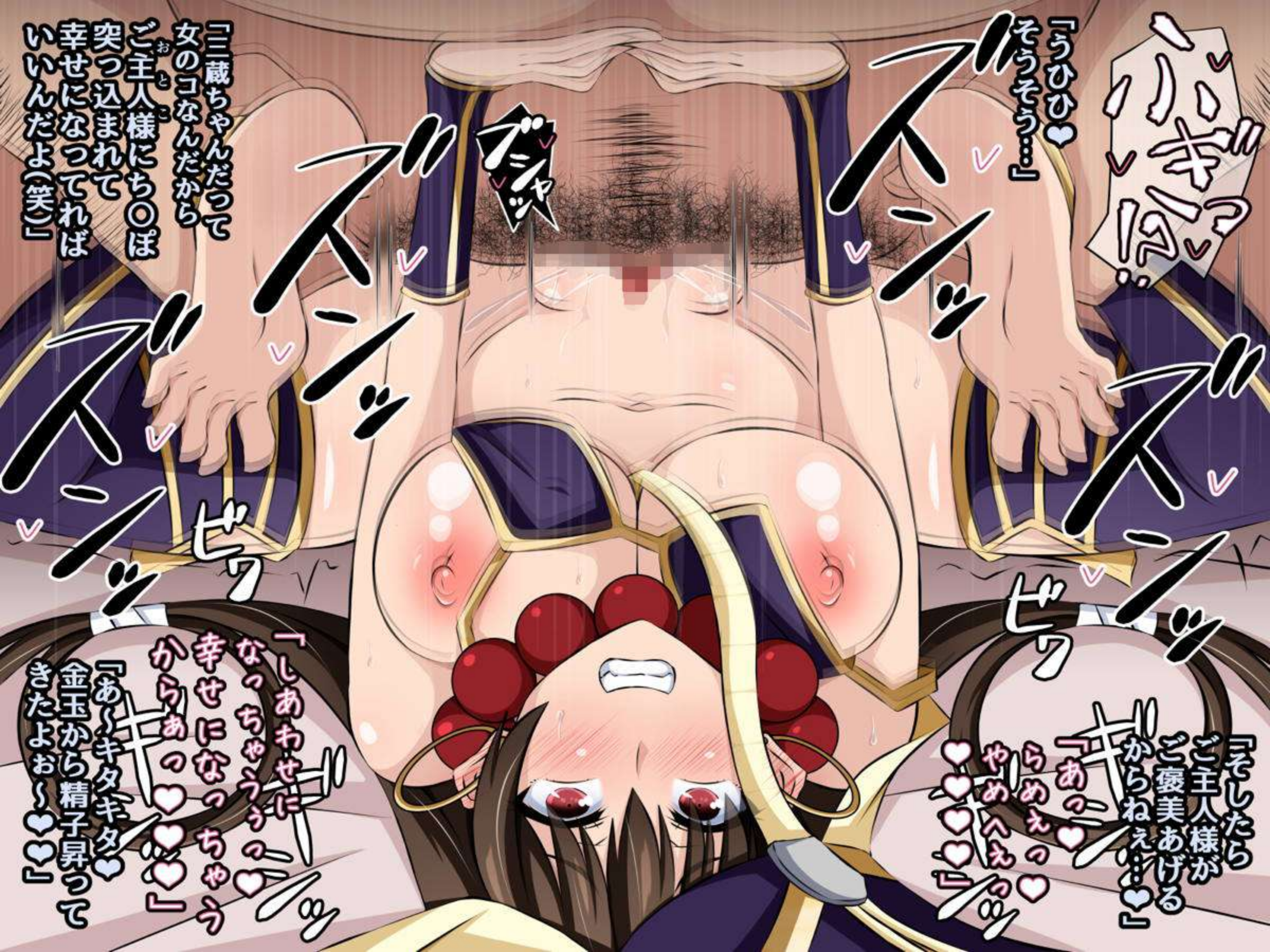
ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

「しあわせに
なっちやううう
幸せになっちやう
からあ♡♡♡」
「あ、キタキタ♡
金玉から精子昇って
きたよお♡♡♡」

「あ♡♡♡
らめえ♡♡♡
やめ♡♡♡」
「ご主人様が
ご褒美あげる
からねえ♡♡♡」

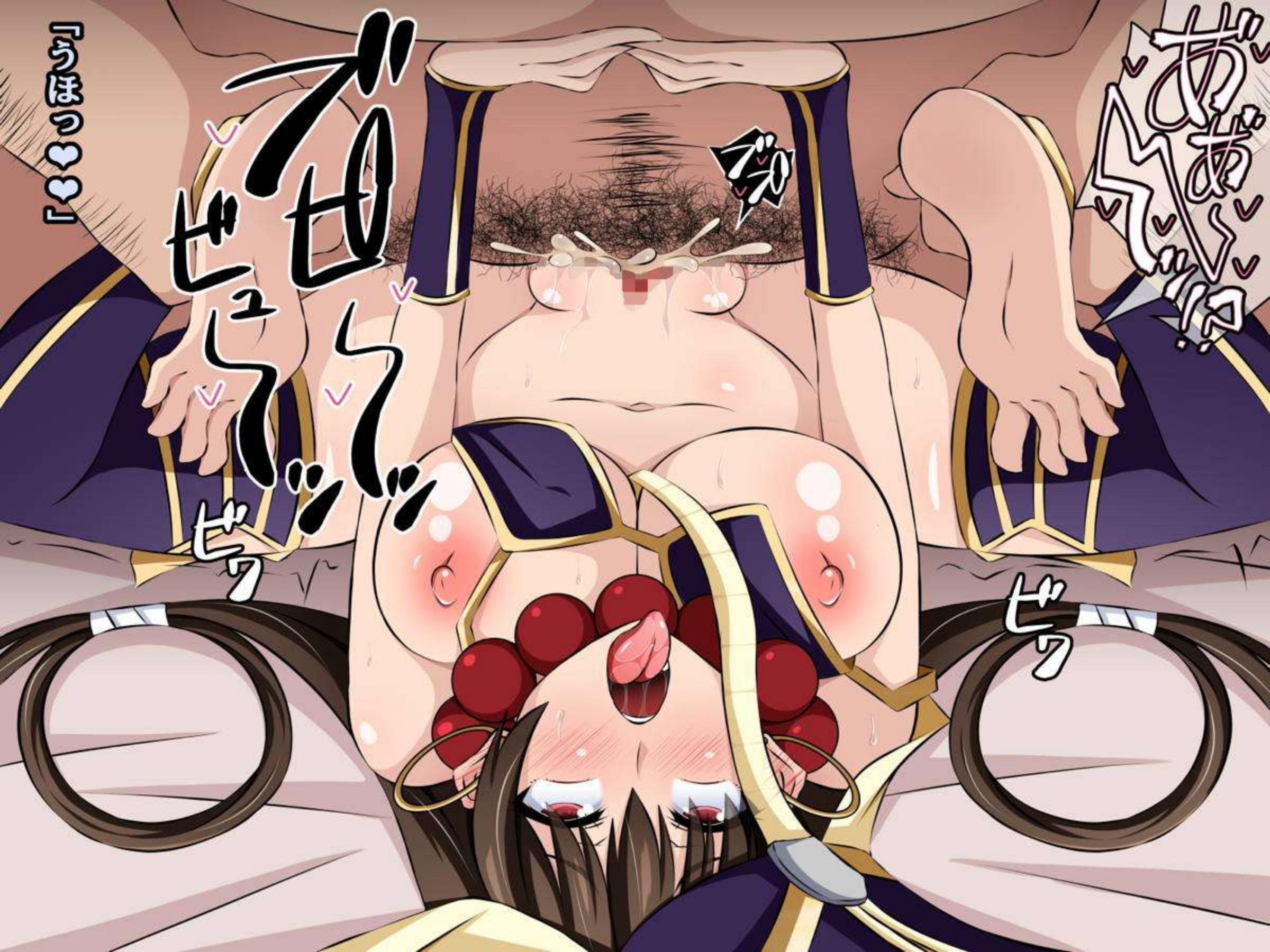


「あははは」

あははは
あははは
あははは
あははは
あははは
あははは

あははは
あははは
あははは
あははは
あははは
あははは

あはは



おおおっ

「あ〜やべえ〜
射精するう〜♡♡
小便みたいに出る〜(笑)」

ブゼ
ジュ
チウ
ウツ

ブゼ
ジュ
ウツ

「僧侶とガチ交尾♡
気ままに膣内射精♡
背徳感サイコーすぎて
射精とまんね〜♡」

「らめっ♡
あっ♡♡♡
らめえ♡♡♡」

「だから
抵抗しても無駄
だつて言うてる
だろっ♡」

「ちやんと子宮で
覚えるよ〜♡
これが三蔵ちゃんを
墮としたご主人様の
精子だぞ〜♡」
「おっ♡♡♡
ふぁ〜♡♡♡」



「ふほほっ♡
豚面似合ってるよ♪
三蔵ちゃん♡
猪○戒に改名したら? (笑)」

ほほ

ふふ

トロ

「ほら
ぶひぶひつて
鳴いでみて♡」
「ふふ♡
♡♡♡♡♡」

「そーそー♡
「発腔内射精キメた
三蔵ちゃんはホント
素直だなり♡」

ぎん



「じゃあいいから
いつもの敗北宣言
しとこうか♥
今回は元マスター
も見てるから
張り切つてね♥」

ほ

ふ

は

「はらさ♥」

は

は

は



「私いつ♡玄○二蔵はあ
ご主人様のおち○ぼ様に
完全敗北した雌豚
サーヴァントですうっ♡」

「これからはご主人様に
のみお仕えしてえっ♡
ご主人様の性欲を満たす
ためだけに生きていく
ことを誓いますうっ♡」

「ぶふふ♡
元マスターくん…
「弟子」はどうする
の？」「
「そ…それはあ…♡」

「ほらはうきじ
言わないと
おち○ぼ
止めちやうよ♡」

「あ♡あ♡あ♡」



「破門っ♡
破門にしますっ♡」

「どうしてっ♡」

「ほ」

「あ」

「トロ」

「あんな短小童貞よりもっ♡
カリ高極太ち○ぼ
の方が百倍大事
だからですうっ♡」

「はい、よく言えました♡
コレ見たら元マスターくん
どう思うかなっ(笑)
かわいそっ(笑)」

「弟子なんてもう
どうでもいっから
キョんっ♡」

「んっ♡縮まる縮まる♡」

「んっ♡縮まる縮まる♡」





「お母さん」

ゼツ

ズツ

ズツ

ゼツ

ゼツ



「おほい♡」

ズツ
ズツ
ズツ

ズツ
ズツ
ズツ
ズツ
ズツ

ズツ

ズツ
ズツ
ズツ
ズツ
ズツ

あ
あ
あ
あ
あ

「あゝまた射精ちやつたゝ♡
ちゅちゅちゅちゅ吸いっいで
きやがつてち○ぽに
媚びすぎだる雌豚ま○♡」

「はら三蔵ちゃん」

「はら修行はまだ
終わりじゃないよ
三蔵ちゃんっ♡
自分ばかり気持ち
よくなってるないで
ご主人様への
ご奉仕もしつかり
覚えなきやつ♡」

「はらっ♡
はらっ♡」

がっちん...

トロ

「ひひっ♡
がっちり組んで
顔面騎乗パイズリ
のポオ〜ズ♡♡

はら三蔵ちゃん♡
僕が君のおっぱいで
オナニーしてる間
どうすればいいか…
わかるよね♡」

「ふっ♡」

のっ
しっ

はら



「ほほっ♡♡
いいよお〜三蔵ちゃん
ケツ穴にディープリキス♡

長あい舌が
にゆるつと
きたあ〜♡」

がっちん…

ドロ

しゃんっ

ちんぽ

ぶるぶる



べろっ

ハルハル
ハルハル
ハルハル

ズッ

「おっ♡おっ♡おっ♡
あーやべえー
捲るう〜♡」

ズッ

ブッ

ブッ

「英霊に無洗ケツ穴
掃除させながら
パイズリオナニ〜♡
ち○ぽにくるう〜♡」

ハルハル
ハルハル
ハルハル

ぬっ
ちゅ

ぬっ
ちゅ

ちゅ

べろ♡

ズン♡

ズン♡

「おっ♡
わがっ♡」

ズン♡

ちゅ♡ちゅ♡ちゅ♡ちゅ♡
ちゅ♡ちゅ♡ちゅ♡ちゅ♡
ちゅ♡ちゅ♡ちゅ♡ちゅ♡

ぬ♡ちゅ♡
ぬ♡ちゅ♡

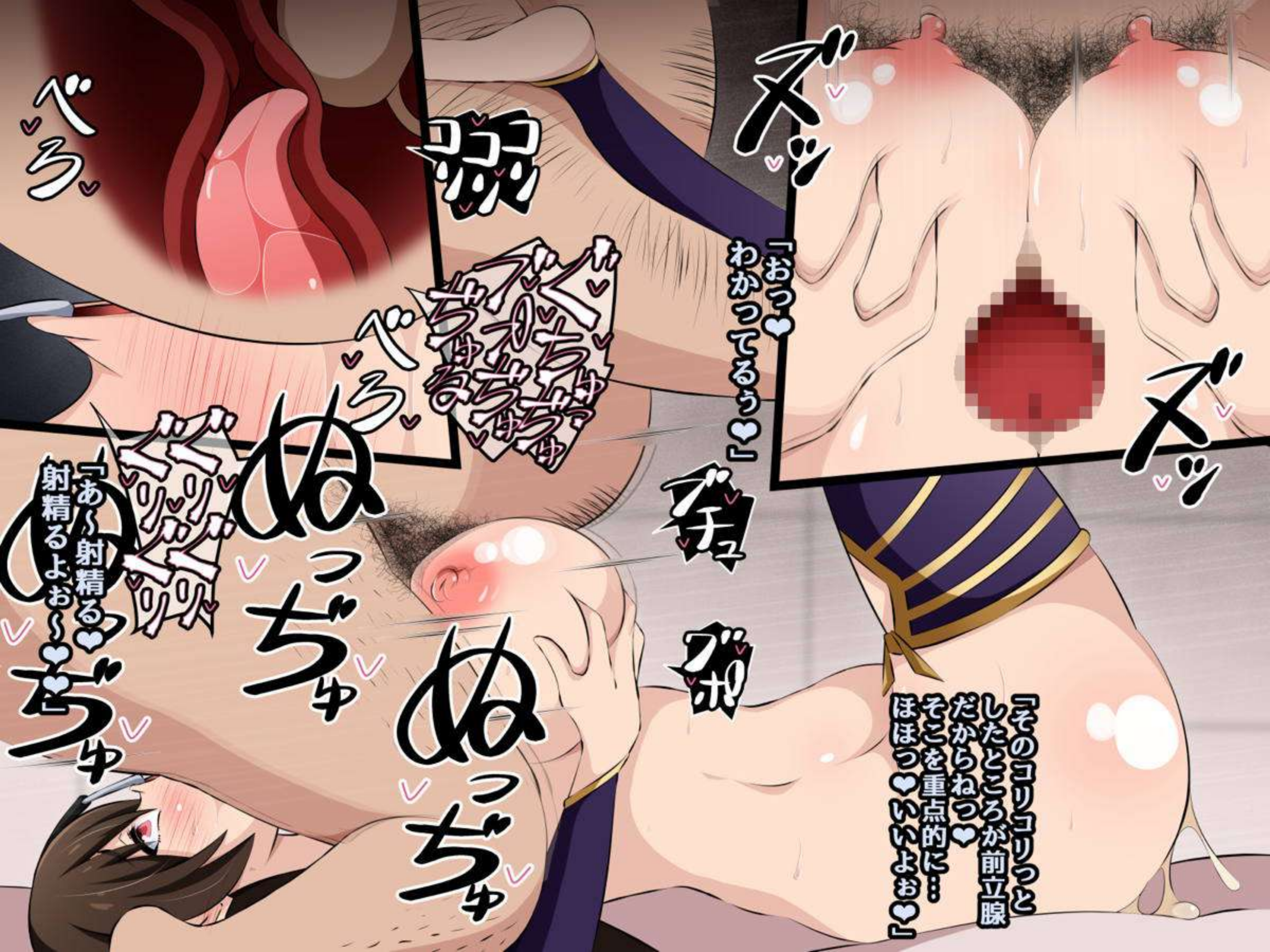
ぬ♡ちゅ♡
ぬ♡ちゅ♡

ズン♡

ズン♡

「あゝ射精る♡
射精るよお♡」
ちゅ♡ちゅ♡

「その「アッアッ」と
したところが前立腺
だからね♡
そこを重点的に…
ほほ♡♡♡」





「お尻を叩く〜お尻を叩く〜」

トク

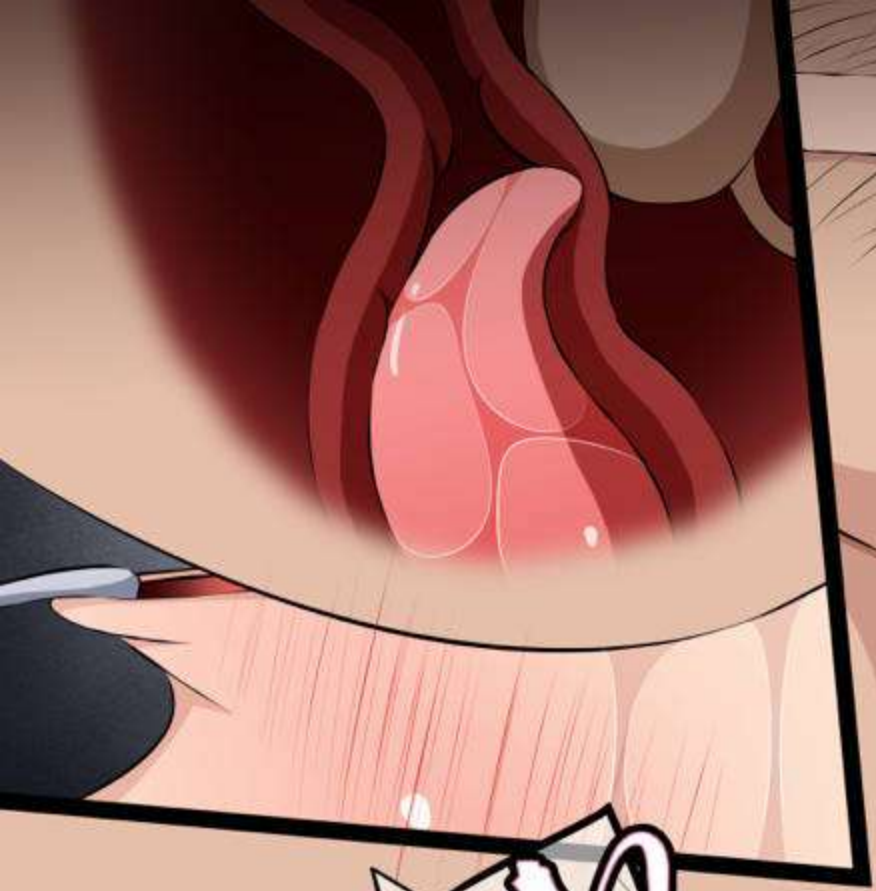
トク

バツ

バツ

ドドド
ジュジュ

お尻を叩く〜お尻を叩く〜



「ひひひひ♡
イイねえ♡三歳ちゃん♡」

「ハヤビ」

「おっ♡
おほ...♡」

「糖しそらな
イツちやつて♡」

ドド
ジュンジュン

ゴ
ジュン
ジュン

ゴ

ゴ

「おは
おは」

「ご主人様がイクときは
自分もイク♡
きちんとできて偉いよ〜」



「おほっ
!?♡♡」

「はい三蔵ちゃん
最後におち〇ぽ
綺麗にしてね♡
後片付けまでが
修行の二環でしょ」

ぐい

ゴッ

「は♡はあい♡
くっさいち〇ぽ♡
綺麗に掃除させて
いただきませす…♡」



アロ

びびる
ぐわんぐわん
ちゅちゅ
なやぬる

「そうそう♡」

三蔵ちゃんを
舐けるために
汚れちやつた
おち○ぽ様に
感謝を込めて
丁寧になら♡」

べろ
べろ

ん
ん

「はひ♡べろお♡
ありがとう
ございまして
おち○ぽ様あ♡
べろべろお♡
ぶらぶら♡」

「ひひ、鼻ならしちやつて
三蔵ちゃんはホントに
くっさい臭いが好きだな♡」



「じゃあ
三蔵ちゃん♡
おち○ぼ掃除
しながら
元マスターに
きちんとお別れ
しとこうか♡

修行中に言ってた
よね？
彼はもう破門に
するって(笑)」

「ぶひ♡
はひいつ♡

弟子ごめんね♡
そんなわけだから♡
：あなたのこと♡
助けられなく♡
なっちゃった♡

ゴ
ゴ

「あたし
このおち○ぼ様に
完全敗北
しちゃつてえ♡
ご主人様のモノ
になっちゃつた
から♡
べろべろべろ♡
あゝち○ぼうま」



べ
ろ

「じゃあ
三蔵ちゃん♡
おち○ぼ掃除
しながら
元マスターに
きちんとお別れ
しとこうか♡」

修行中に言ってた
よね？
彼はもう破門に
するって(笑)」

「ぶひ♡
はひいつ♡」

弟子ごめんね♡
そんなわけだから♡
: あんたのことから♡
助けられなく♡
なっちゃった♡

ゴ
ゴ

「あだし
このおち○ぼ様に
完全敗北
しちゃつてえ♡
ご主人様のモノ
になっちゃった
から♡
べろべろべろ♡
あ〜ち○ぼうま♡」

「は〜い♡
そういうわけだから…
三蔵ちゃんのことも
諦めてね♡
この映像でいっぱい
シヨシヨしていい
からさ♡」

べ
ろ

「あ、でも拘束されて
るんだっけ(笑)
自分のち○ぽも触れ
ないなんてかわいそ♡

こっちは三蔵ちゃん
使いまくつてんのに
……♡」

ド
ヒュッ

おっ

おっ



「あ、ごめんね
射精ちやつた♡」

「今までずらつと
一緒に頑張ってた
マスターから
横取りした
三蔵ちゃんが
僕のおち〇ぽ
舐め回してると
思うとささ♡」

ド
セ
ユ
ッ

「ごめんね
君の三蔵ちゃん
雌豚にしちやい
ました♡」

「鼻の穴に射精
されてイッてる
ようじやもう
ダメだね(笑)」

「えひ♡おほっ♡
ぶひひい♡
ブタ鼻イキ
最高お♡」

「はっい、じゃあ
三蔵ちゃんが
完堕ちしたところで
一回そちらにお返し
しまさす♡」

ブ
セ
ユ
ッ

「しばらく余韻を
お楽しみ
ください(笑)」

「くそ……くそ……っ
なんで……また……っ」

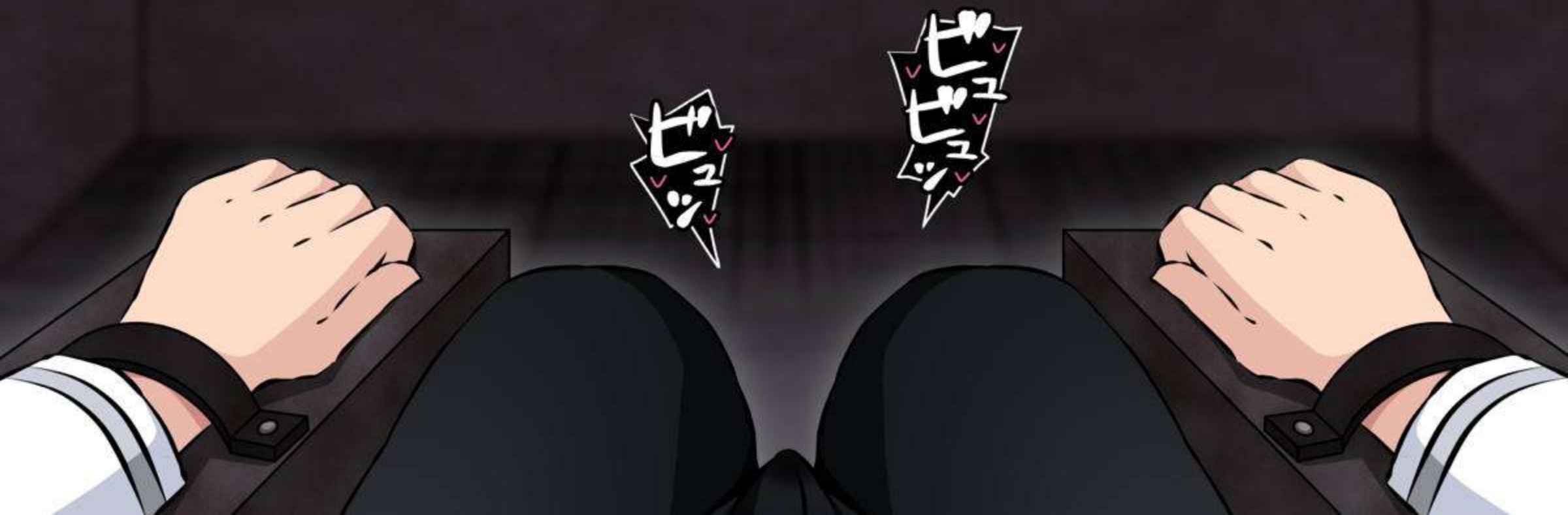
また…精子が
パンツの中を汚す…

自分の身体なのに完全に
制御がきかなくなっていた…



ヤツの言う通り
触れてもいけないのに…
……俺を弟子と
言ってくれていた
『お師さん』……

彼女が奪われたと思った
瞬間……



「……くそ……
いつまで続くんだ……」



しばらくして、
また画面が切り替わる……
次はいつたい……誰なんだ……



いじり

「いかがですかあ
ご主人様♥
パイズリ!
上手にできてる
でしようか♥」
「うん上手上手〜♥
あ、ところでもう
撮影始まつてるよ
マシユちゃん(笑)」

もみん

ちゅん

「あ、そっか...
すみません、先輩♥
もう少しだけ頑張つて
くださいね♥
ご主人様ったらなかなか
油断してくれなくて...♥」

「え?...あ。
そ、そうでした♥
え〜と...先輩?
元気にしてますか?」

「いや元気では
ないでしょ
拘束されてる
んだから(笑)」

もみん

「そうかな〜?
そんなことない
と思うけど...(笑)」

「あ、ちなみに私は引き続き南の島で過ごしています♡前回からさらにひと月と…いったところでしょうか…」

「ご主人様と二人っきりのビーチで色んなことを仕込まれてしまいました…♡」

「ボク好みに色々仕込んでいました♡」

ちゅみん♡

ちゅみん♡

ちゅみん♡

「パイヌリもそのひとつ…ほら見てください先輩♡赤ちゃんを育てる大切な器官をこんな風にするなんて最低ですよ♡」

「でもそれがすっごく興奮するみたいですよ♡」



「あ、ちなみに私は引き続き南の島で過ごしています♡前回からさらにひと月とあったところでしょうか…」

「ご主人様と二人っきりのビーチで色んなことを仕込まれてしまいました…♡」

「ボク好み色々仕込んでいました♡」

とみん

「だからこうやってえおっぱいでぎゅってち○ぽをちもみちもみしながらあ…♡」

「おっ♡おっ♡」



べろ

べろ

「パイズリもそのひとつ…ほら見てください先輩♡赤ちゃんを育てる大切な器官をこんな風にするなんて最低ですよ♡」

ぬぬしゅろ
せちしゅろ
ちゃっや

とみん

でもそれがすっごく興奮するみたいです♡」

「あ、ちなみに私は引き続き南の島で過ごしています♡前回からさらにひと月とあったところでしょうか…」

「ご主人様と二人っきりのビーチで色んなことを仕込まれてしまいました…♡」

「ボク好み色々仕込んでいました♡」

とみん

「だからこうやってえおっぱいでぎゅってち○ぽをちもみちもみしながらあ…♡」

「おっ♡おっ♡」

べろ

べろ

「パイヌもそのひとつ…ほら見てください先輩♡赤ちゃんを育てる大切な器官をこんな風にするなんて最低ですよ♡」
でもそれがすっごく興奮するみたいです♡」

ぬぬしゅろ
せちしゅろ
ちゃちゃ

とみん



「あ、ちなみに私は引き続き南の島で過ごしています♡前回からさらにひと月と…いったところでしょうか…」

「ご主人様と二人っきりのビーチで色んなことを仕込まれてしまいました…♡」

「ボク好み色々仕込んでいました♡」

とみん

「だからこうやってえおっぱいでぎゅってち○ぽをちもみちもみしながらあ…♡」

「おっ♡おっ♡」



べろ

べろ

「パイズリもそのひとつ…ほら見てください先輩♡赤ちゃんを育てる大切な器官をこんな風にするなんて最低ですよ♡」

ぬぬしゅろ
せちしゅろ
ちゃっや

とみん

「舌裏で亀頭をべろべろするおっ♡」

「ほほほおっ♡♡♡」

「あ、ちなみに私は引き続き南の島で過ごしています♡前回からさらにひと月とあったところでしょうか…」

「ご主人様と二人っきりのビーチで色んなことを仕込まれてしまいました…♡」

「ボク好みに色々仕込んでいました♡」

とみん

「だからこうやって♡おっぱいでぎゅってち○ぽをちもみちもみしながらあ…♡」

「おっ♡おっ♡」



べろ

べろ

「パイズリもそのひとつ…ほら見てください先輩♡赤ちゃんを育てる大切な器官をこんな風にするなんて最低ですよ♡」

ぬぬしゅろ
せちしゅろ
ちゃっや

とみん

「舌裏で亀頭をべろべろするおっ♡」

「ほほほお♡♡♡」

「ぶぉっ♡」

「あは……っ♡
ほら♡すぐ射精し
ちやうんですよ♡」

びゅんっ♡

「だってさあ♡
あのマシユちゃんか
こんなエロい顔して
パイズりするなんて…
これ見てる元マスター
くんがどう思うかなっ
って想像したら…ひひ♡」

「おっ射精るっ♡
噴水みたいに射精るう♡」

ゼジュゼジュ

「今日も朝から
ヤリまくってのっ♡
まだこんなに
射精るなんて…♡」

「寝取ってる

優越感がもう

最高でさあ♡」

「もう…最低です
ご主人様♡」

「気にしちゃダメですよ
先輩♥」

確かに身体は隅々まで
ご主人様好みにカスタム
されて寝取られ尽くし
ちやつてますけどお…♥

私の心はまだ貴方の
モノですから♥」

ズ

と
お

「さあどうかな〜(笑)
まあそれは後々の
お楽しみということだ…」

「他のサーヴァントの方々
だってきつと同じです♥
だからどんな映像を見せられ
たとしても気を落とさないで
くださいね♥」

……まさか興奮して
勃起したりしてないですよ？
先輩がそんな負け犬鬱勃起
するわけないですよね…♥」

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

「じゃあここらで
次のコを紹介しま〜す♥
マシユちゃんによると
心までは堕ちてない
サーヴァント…
ご覧ください(笑)」

「お薬っ♡お薬くださいっ♡
お願いしますっ主人様あっ♡
ジャンヌにお薬っ♡
おくすりいいい
いひっ♡♡♡」

母

はっ♡

はっ♡

ちゅっ♡

「あゝ
もうダメだな
この聖女(笑)
注射器見た途端
目の色変えちやって…」



「はあいっ♡♡♡」

「うわ、注射痕エグう(笑)
聖女様がこんな
ヤク中まる出しの
腕してちやダメじゃ
ないの?」

ズズ

「いいんですっ♡
私は聖女じゃありません♡
犬以下のキメセク玩具
なんですからっ♡
だから早く♡早く♡」

「はっはっ…」



「はあいっ♡♡♡」

「うわ、注射痕エグう(笑)
聖女様がこんな
ヤク中まる出しの
腕してちやダメじや
ないの?」

ぢゅわん
カス

「いいんですっ♡
私は聖女じゃありません♡
犬以下のキメセク玩具
なんですからっ♡
だから早く♡早く♡...」

「はっはっ...」

ぢゅわん

「ほっれ
ぶちゅっ♡」



「あ♡あ~~~~~
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
あははははあ♡」

「あ♡あ~~~~~♡  
キメセクするのに  
脳みそなんか  
いらないも〜ん♡」

「あ♡あ~~~~~♡  
冷たいのお♡  
あは♡すき♡  
これすき♡♡  
きもちい♡♡♡

カス

ちんちん

「はいはい  
よかったね〜  
とつても身体にわる〜い  
お薬気持ちいいね〜

「今日もい〜っぱい  
お薬キメて  
スポンジ脳みそ  
も〜つとダメに  
しちやいましてようね〜」

「あ〜あ〜まった〜く…  
必死に抵抗してた頃の  
凛々しい姿がもう  
見る影もないな〜(笑)

「さすがの聖女様も  
催眠とお薬のコンボ  
には勝てなかつたね♡」



おほおほお  
おほおほお

ズキズキズキ

ズ  
ッ  
ッ

「はい、とりあえず  
一本目終了〜♡  
軽々と受け入れ  
ちやつてまあ…  
変な汗かいてるけど(笑)

普通の人間ならもう  
とつくに死んでるよ？  
よかったね〜頑丈で」

「はあ〜……っ♡  
はあ〜……っ♡  
はあ〜……っ♡  
……っ♡♡♡  
「……っ♡♡♡」



「あ……っ♡♡♡♡」

「じゃあ早速使おうかな  
ジヤンヌのヤクキメ  
ぐちよぐちよま○こ♡  
そのためにお薬入れて  
あげたんだからね」

ドキドキドキ

ゴっ

ぼろん

「ヤクキメま○こで  
上手におち○ぽ奉仕  
できたら追加で○褒美  
あげるからね」

「死ぬ気で  
イキ狂えよ♡」

「はあ……っ♡  
ひひ……っ♡」

あーっ♡



「ほおおおイグうっ♡♡  
ヤクキメま〇こ♡♡♡  
イグうっ♡♡♡♡♡」

「イグっ♡おっ♡  
おほおおお♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

ぎゅん♡ん

ちんぽ



「あく気持ちいい♡  
膈内が別の生き物  
みたいになうねうね  
ふっとお♡」

「やっぱりジャンヌの  
ま〇こは薬キメさせ  
ないとな♡」



「おら恥ずかしくもないのか  
この墮落しきった性女がっ  
墮壁コスる度にイキまくり  
やがって♡」

「あーっ♡♡♡♡♡♡♡♡  
あーっ♡♡♡♡♡♡♡♡」

ぎゅわん♡

ちゅわん

マン♡

「こんなアクメ顔  
さらしながら  
痙攣セックスする女  
娼婦にもいないぞっ♡」

「あああだっつてえ  
えええっ♡♡♡♡♡♡」

「だっつてえへええ  
えええっ♡♡♡♡♡♡」

「言い訳があるなら  
言ってみろっ」



「だって仕方ないのおっ  
仕方がないんですう  
キメセク♡♡♡  
知っちやっただあつ♡  
ヤクキメま〇こ  
ほじられる快感  
頭が覚えちやっただ  
からあつ♡♡♡」

ぎゅん

「こんなのズルいっ♡  
こんなのおっ♡♡  
こんなのなかつた  
もんっ♡♡♡」

「私が生きてた頃は  
こんなしゅごいの  
なかつたもおんん  
♡♡♡♡♡」

ズ  
ズ  
ズ  
ズ  
ズ  
ズ

「そっつかそっつか  
そうだよね♡  
ジヤンヌも女のヨ  
だもんね♡  
どんな拷問に耐え  
られる女でも  
催眠とお薬の快楽  
コンボには勝てない  
よね♡  
しかも致死量ガン無視  
のヤクキメプレイスト♡」

「まあ仕方ないよ  
女のヨってそういう  
生き物だからさ♡  
ま〇こほじられたら  
ち〇ぽに媚びるしか  
ないし♡  
子宮に射精され  
たら孕むしか♡」

「ないん  
だよねっ」



ト

ア  
ウ



「あゝもう始めてる!!  
ボクも一緒にしてて約束したのに...  
ご主人様のためにセックス用の  
エロコスしてきたんだぞ」

「ごめんごめん、  
ジャンヌがもう我慢  
できないって言うから  
仕方なくさ」(笑)

「またあ?  
もうホントどうしようもない  
ヤク中聖女だなあ...」



おほおほ  
おおお



お

「あゝもう始めてる!!  
ボクも一緒にっつて約束したのにっつ  
ご主人様のためにセックス用の  
エロコスしてきたんだぞっ」

「ごめんごめん、  
ジャンヌがもう我慢  
できないっつて言うから  
仕方なくさっ(笑)」

「またあ?  
もっホントどうしようもない  
ヤク中聖女だなあ…」

「ははは、人のコト  
言えないでしょ(笑)  
ほらアスくんにも  
お薬あげるから  
こっちおいで♡」

「えへへ♡  
はあゝい♡♡♡」

ほおお  
おお

お



「んあ~~~~~♡♡♡」

「はい、じやあキメる  
前に元マスターに  
一言(笑)」

あ~~~~♡♡♡

「ふえ？元マスター？  
……ああ、そういやコレ  
見せるんだっけ  
もうあんなヤツどうでも  
いいんだけど……(笑)」

おのちのこの



「やっほ〜  
元マスター見てる〜？  
催眠と薬とち○ぽには  
勝てなかった『元』  
キミの剣で〜す♡」

あ〜♡

「今からボクもキメセク  
するから〜♡  
情けなくいクズち○ぽ  
おっ勃たせてしっかり  
見ててね〜♡」

ボクのお気に入りは  
この錠剤♡  
胃からガツーンとくる  
感じがイイんだ〜♡  
そ・れ・じ・ゃ・あ…ひひ♡  
いつただき  
まあ〜す♡」

おん







あゝ

「あゝあゝ」

あゝ

あゝあゝ

あゝ



「……………んはあ〜♡  
これこれ…っ♡♡♡♡♡  
空っぽの胃でイケない  
お薬が溶けるの感じ  
るう…っ♡」

ぷん

あ

あ

ゴ  
ズン

でもサーヴァントだから  
いくらでもキメ放題♡  
イイでしょお〜♡♡♡

「へへへ、知ってるう  
元マスター？  
この錠剤い♡  
普通の人間なら一粒で  
廃人確定の超ヤバい  
ヤツなんだつて〜♡

ゴ  
ズン



「あっ♡軽く  
イツちやった♡」



「お薬で雌ち○ぽ  
バカになってるう♡  
ご主人様にケツま○こ  
ほじられるのお…  
期待して♡勝手に♡」

「ひひひ♡準備完了だね♡  
それじゃあ…始めよつか  
アスくん♡」

「はあ〜♡」



「あゝイグツッ♡  
ケツまの〇こイグッ  
うゝツツ!!!♡♡♡」

ブッポ

ブッポ

ゼツッ

がっ

がっ

ゼツッ

ゼツッ

ブッポ

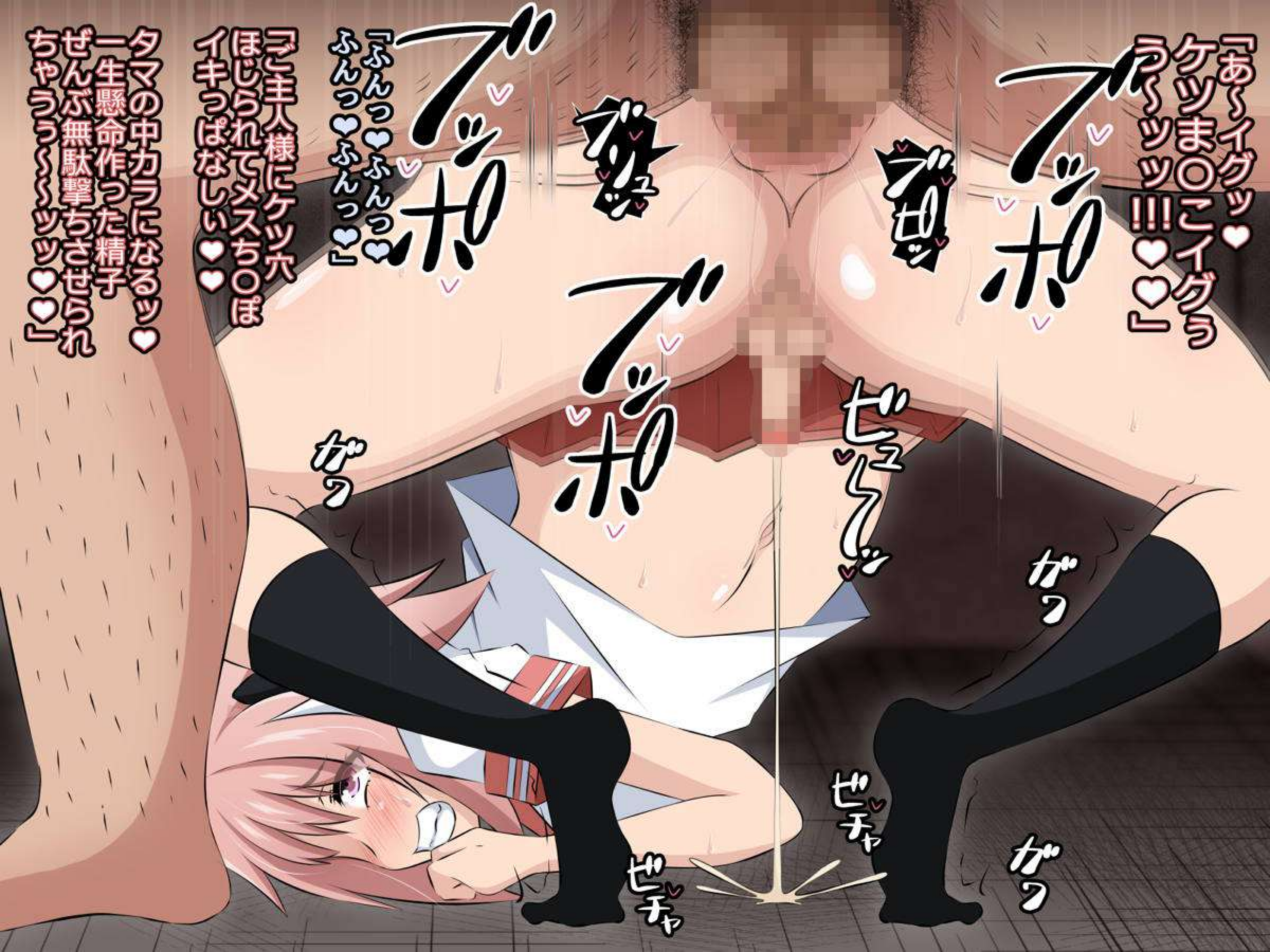
ブッポ

ブッポ

「ふんっ♡ふんっ♡  
ふんっ♡ふんっ♡」

「ご主人様にケツ穴  
ほじられてメスち〇ぽ  
イキっぱなし♡♡♡」

「タマの中カラになるッ♡  
一生懸命作った精子  
ぜんぶ無駄撃ちさせられ  
ちやううゝゝツツ♡♡♡」



「う〜む♡やっぱり  
男の娘もいいねえ♡  
女の『O』の穴とはまた  
違った味わい♡  
特にこの…!」

「おめひっ♡イグっ♡  
イグうっ♡♡♡」

「前立腺っ♡  
これをちOぽで押し潰す  
感触は女の『O』じや、味わえ  
ないからね♡  
おら潰れるっ♡潰れるっ♡  
もう役に立たないん  
だからっ♡」

「おめひっ♡イグっ♡  
イグうっ♡♡♡」

「まったくどれだけ  
溜め込んでんだっ♡  
メスイキしかできない  
バカちOぽのくせにっ!」

「いひっ♡そうなのお♡  
ボクのちOぽっ♡  
どんなにシゴいても  
勃起もできないのにっ!」

ゼッ♡  
ゼッ♡

ズッ♡  
ポッ♡

がっ

がっ

がっ

ゼッ♡  
ゼッ♡

ゼッ♡  
ゼッ♡

「ご主人様とキメセクすると  
射精止まらなく  
なるのおっ♡♡♡」

「それは重症ですね(笑)」



「だからトドメッ♡  
トドメさしてえッ♡  
ご主人様のおち〇ほ様でっ♡」

「お願いご主人様っ♡  
ボクのご主人様あッ♡」

ブッポ

ブッポ

ブッポ

「ボクのケツ穴  
ま〇ごに変えてっ♡  
もう精子作らなくて  
いいように  
してえっ♡♡」

キムン  
キムン  
キムン

がッ

ゼッ  
ゼッ  
ゼッ

がッ

ゼッ  
ゼッ

がッ

ゼッ  
ゼッ

「無茶苦茶言うなあ(笑)  
いくらマスターでも  
それは…あくそんな  
締めつけたら♡♡」

「あゝ射精る♡  
射精る…っ♡」



「あ~~~~~射精てる~~~~  
ボクのケツま〇こッ♡  
ご主人様の精子で  
いっぱいいいひ〜ッ♡」

ギョウウウ  
ウウウウ

ド

ガセセ  
ガセセ  
ガセセ

「おっ♡おっ♡  
やばっ♡  
すげえ〜吸いつき

絶対できないくせに  
受精しようとしてるな  
このケツま〇こっ♡」

「ひっ♡  
ひっ♡♡」

「ホントにバカだな〜  
男の娘ま〇こは(笑)  
メス堕ちしてオスとしても  
終わってるクセに受精も  
できないなんて憐れすぎ(笑)」

がッ

がッ

がッ

「せめて無駄撃ち射精芸で  
ご主人様を楽しませなきや  
ダメだろ(笑)」



「うん♥  
次はどっちに  
しようかな」

トロ

「私っ♥  
次は私のおま○に  
ち○ぽお願いしますっ」

「だ〜めっ♥  
ジャンヌにはボクの  
ち○ぽ入ってるんだから  
いいでしょうっ  
ねえご主人様あ〜♥」

ヌ

トロ

「あなたのモノなんか  
入っても意味ありません！  
ズルいですよあなたばかりっ」

「ふんいなあ  
ちよつとは譲りなよっ  
キミ本当に聖女？」

「こらこら  
ケンカしない  
の(笑)」

「んっ♡♡♡」

ちほキタあっ♡♡♡  
いひっ♡♡♡イッ♡♡♡  
さっ♡♡♡♡♡」

んっ♡♡♡

「えっ♡♡♡  
ケツま〇ンが  
寂しいよっ♡♡」

ズ

んっ♡♡♡

「あっ…  
もう……ご主人様ってば  
ジャンヌにあまいっ♡」

「まあまあ  
慌てない慌てない♡  
順番だよ♡♡  
ちゃんとアスクんの  
ケツま〇こにも…」



「突っ込んでやる  
からぞろ♡♡」

ブ  
チ  
ュ  
ッ

セ  
ッ  
ッ

ア  
ッ  
ッ

「くらっ♡」



「うむこれは迷う♡  
やっぱリアスくんが  
ケツま〇こもイイし…」

「ほい♡ほい♡  
おっ♡おっ♡」

「ちよひんお  
射精しすぎでちよひん♡  
肛下のケツ穴にっ」

セックス



「うむこれは迷う♡  
やっぱリアスクんの  
ケツま〇こもイイし…」

「ほっ♡ほっ♡  
おっ♡おっ♡」

「ちよっ♡お  
射精しすぎですわよ♡  
肛下のケツ穴にっ」

「ジャンヌの  
ま〇こも捨てがたい♡」

「ふほっ♡  
おっ♡おほっ♡」

「ちよっ♡ちよっ♡  
締めつけ過ぎっ♡  
ち〇ほ干切れちゃっ♡」

「せゅっ」

「ぎゅっ」

「んっ」

「んっ」

「ボクっ♡」

「いやあ〜  
どっちに射精そう  
かなあ〜♡」

「私っ♡」

「ひひっ♡  
よおし  
それじゃあ…」

「まずは  
アスくんぽっ♡」  
「おんぽっ♡  
ぽっ♡  
ぽっ♡」  
「あっ…」

ド  
ン  
ッ

「ほ♡ほ♡  
ほお♡♡♡」

「そっぴそのまもの  
勢いでえ…っ♡♡♡」





「あゝ幸せ〜♡  
こんな極上の穴  
食べ比べして  
両方に連続射精っ♡」

ゲトゲト  
チュル  
ウツウツ

チビチビ  
チビおっ

「これも全部カルデアごと  
サーヴァントを全員くれた  
キミのおかげだよ♡  
ありがとう♡♡」



「ふっふっふっ♡  
ほくらこれで  
仲直り♡」

「同じ種を穴から  
垂れ流す性奴隷同士  
仲良くしないとね♡」

「ち…ちゅっ♡♡♡」

「ひっひっひっ♡  
元マスターにはできない  
仲直りのさせ方でしょ(笑)  
二人とも僕のモノに  
なつてよかったね♡」

「わかりましたあ…♡♡」



「はい、じゃあ  
ご褒美追加♡」

「あ♡」



オチ

「はい、じゃあ  
ご褒美追加し  
てね♡」

ぬぬぬぬ  
ぬぬぬぬ  
ぬぬぬぬ

ズン  
ズン  
ズン

ズン

ガッ

ガッ

ガッ

「うおっ(笑)  
すっごい  
痙攣潮吹き♡」

「うわ〜…  
カエルみたい(笑)  
これはさすがにボク  
も引くなあ…(笑)」

「あゝしまった、これ薄めて  
ないやつだった…(笑)  
いくらサーヴァントでも  
死んじゃうかな？  
致死量とっくに超えてるし(笑)」

「あゝ大丈夫大丈夫  
ルーラーは特に頑丈  
だから(笑)  
ほら見てよ  
ジャンヌの顔♡」

おは

おは

おは

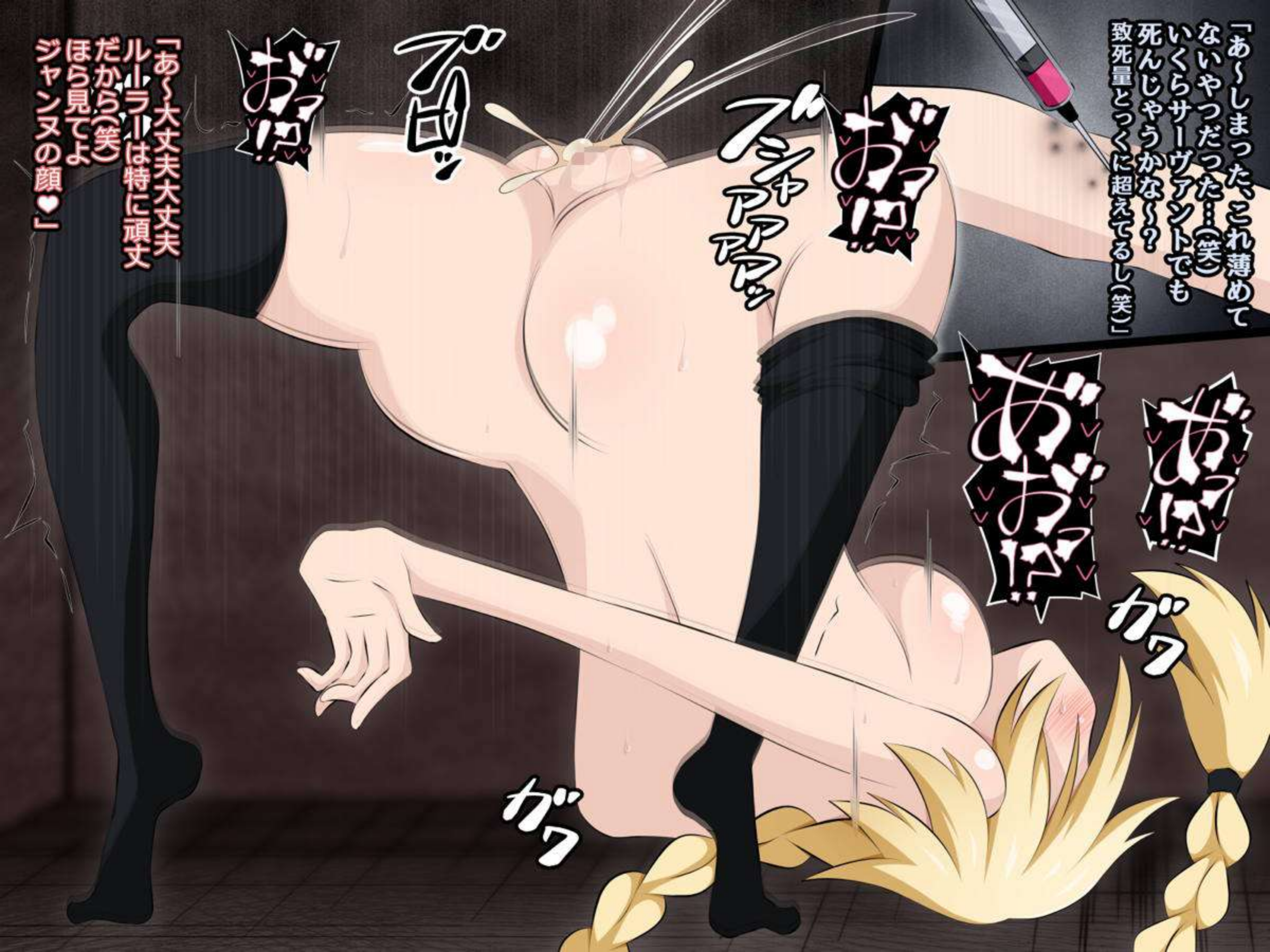
おは

おは

おは

ガッ

ガッ



「あゝしまった、これ薄めて  
ないやつだった…(笑)  
いくらサーヴァントでも  
死んじゃうかな？  
致死量とっくに超えてるし(笑)」

「あゝ大丈夫大丈夫  
ルーラーは特に頑丈  
だから(笑)  
ほら見てよ  
ジャンヌの顔」

「超幸せな  
じゃんこ」



おは

おは

おは

おは

おは

おは

ガッ

ガッ

ギン

おは

おは

「おくさすが聖女♡  
そこらのヤク中とは  
レベルが違うね(笑)」

あーん  
がッ

あーん

ズン  
アアアア

あーん

「まともに喋れなく  
なるほど脳みそ  
ヤツてもまだまだ  
元気なんて♡」

あーん  
あーん

がッ

がッ



「まあ性奴隷に脳みそ  
なんか必要ないからね♡  
頭スツカスカになつても  
身体が使えればそれで  
いいよ(笑)」

ズン  
ズン  
ズン

ズン

ガッ

お

「女の」は薬キメれば  
キメるほどま○この  
具合がよくなるからね♡  
これからこの極上エロボディ  
がどこまで熟成されるのか  
楽しみだなあ…♡」

お

ガッ

「耐久の限界超えて  
死んじゃうまで  
使い潰してあげる  
から覚悟してね♡  
つてもう言っても  
わからないか(笑)」



「わーっ!!」  
ご主人様あーっ!!」

「あーはいはい  
わかってるよ♡  
アスくんにも  
ちやんと  
あげるから…」

あー

ズン  
ズン  
ズン

ズン

「やったあー♡」

「まったく…(笑)  
じゃあ動画はこの辺で…  
またね♡」

ガッ

ガッ

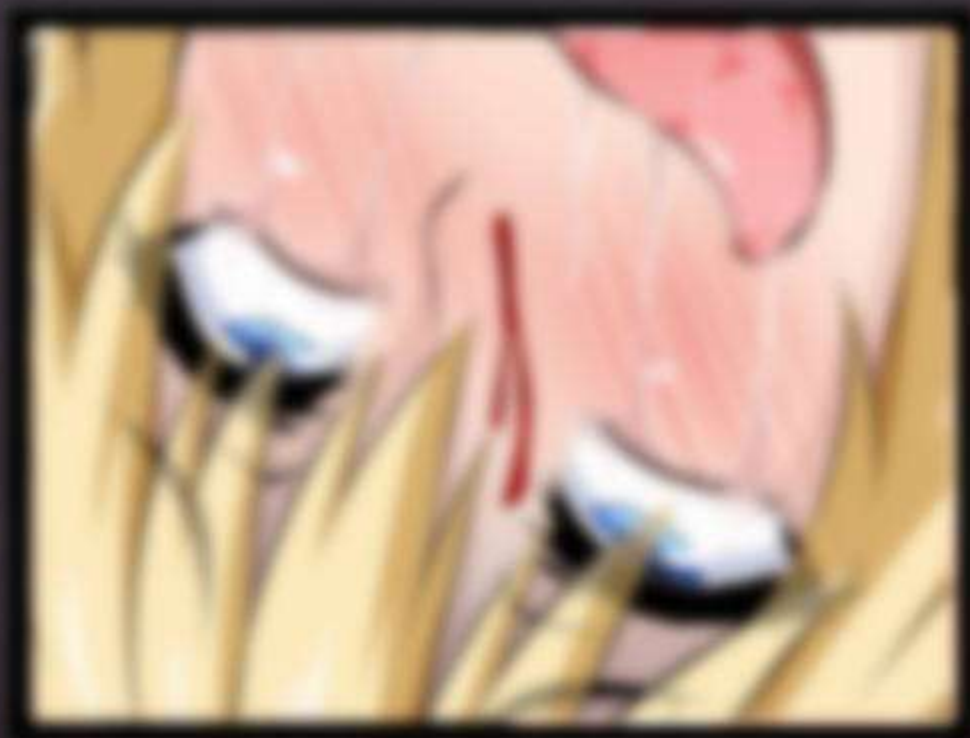
ガッ

あー

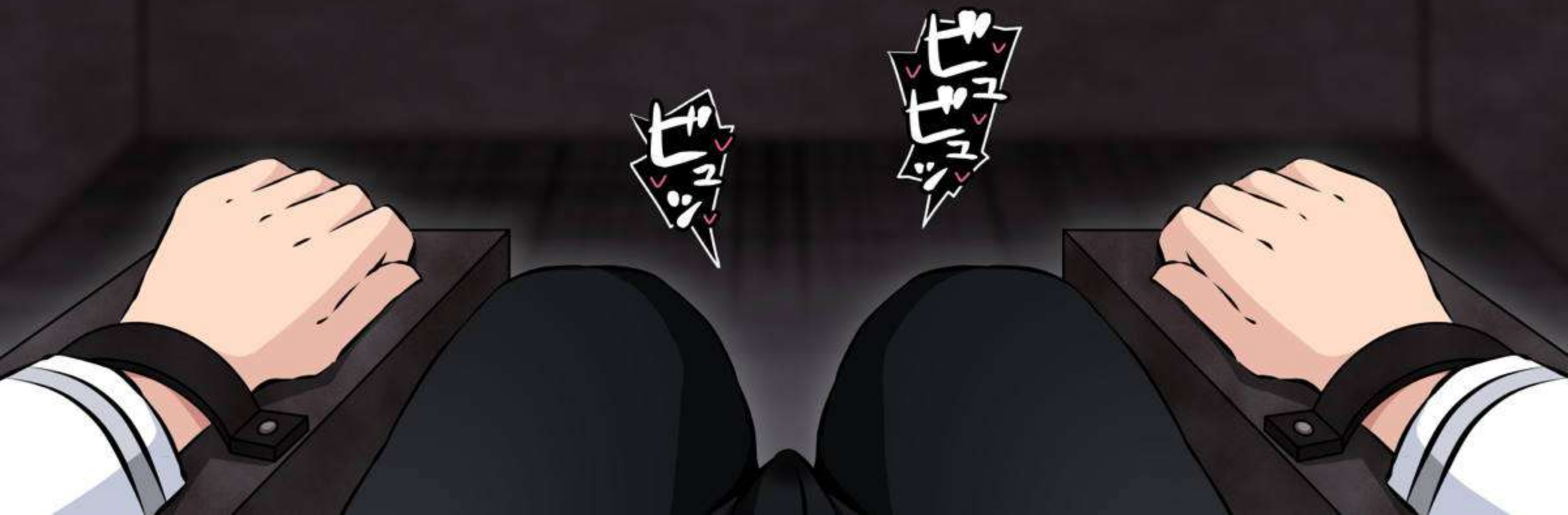




「うーっ……う  
なんで……なんでなんだ……」

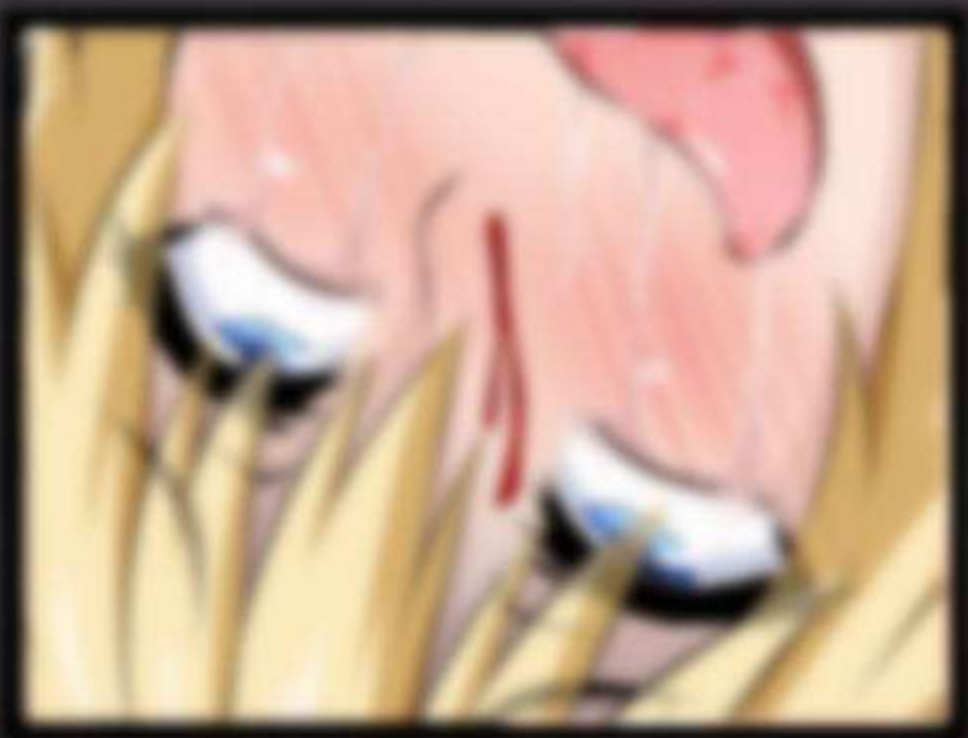


「二人があんな目に  
合ってるって  
言うの……う  
どうして……」



「……くそ……くそ……」

この映像のあと二人は  
どうなったのか…  
二人だけじゃない…  
もう手遅れなのか……



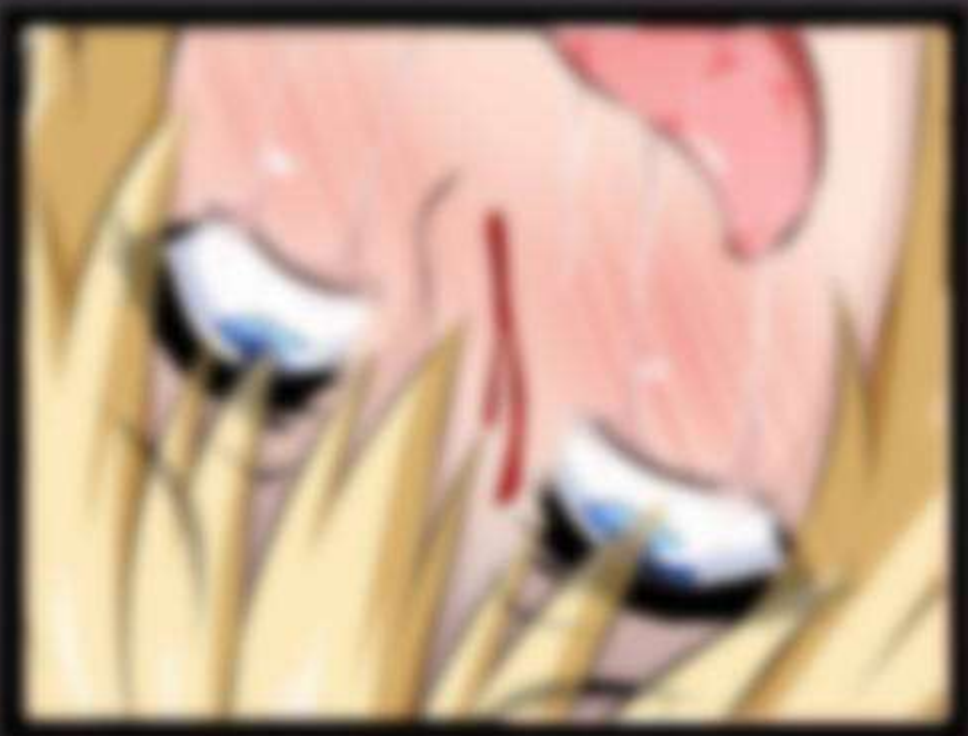
こんなところで…  
何もできないまま  
終わるのか……

「……」



「……………んや」

まだ…諦めちゃダメだ…  
こんな情けないマスターだけど  
まだ何か…できることが  
あるはずだ…



どうにか突破口が…  
せめてこの拘束さえ  
外せば……っ  
誰か——

「……先輩」

「！！」



んや



「は、は、は……」

「はい♡  
お久しぶりです  
先輩♡

楽しんで  
いただけ  
ようです  
ね…  
私た  
ちの  
寝取  
られ  
動画  
♡

「え…え…!?」

ぽ♡

て♡



「マシユ…そ…  
そのお腹は…!？」

「もちろん、ご主人様の  
子を妊娠したんです  
毎日毎日あれだけ  
膣内射精されたら  
当たり前ですよね♡

あれから十ヶ月…  
もう臨月なんですよ♡」

「じゅ…っ  
そんなに経って…!？」

ぽ♡

「そ…ですよお♡  
私けっこう頑張っ  
て抵抗してたんです  
けど…!？」

「妊娠したってわかって  
心が折れちゃいました♡  
だからもう先輩は  
助けられません♡  
ごめんなさい、先輩♡」

「そんな…うそだ…っ!？」

「くすくす♡  
それにしても…  
いったい何回射精  
したんですか？」

「自分のサーヴァントが  
奪われているのに…  
それも拘束されたまま♡  
先輩ってホントー」

ぽ♡

て♡



「くすくす♡  
それにしても…  
いったい何回射精  
したんですか？」

「自分のサーヴァントが  
奪われているのに…  
それも拘束されたまま  
先輩ってホント」

「最っ低  
です♥」

「ざざ」

「ぽ」

「ふふ♡私になじられて  
またお漏らし  
しちゃったんですか？  
どうしようもない  
クズマスターですね  
…あ、元か(笑)」

「せせ」

「ホント…  
ご主人様の言う通り♡  
なんでこんな情けない人を  
尊敬してたんでしよう♡  
ち○ぽも小さいし…(笑)」





「ほら、振り返って  
見てください先輩♡」



うん

「やあ初めまして  
元マスターくん♡」

「え……!?!」

ぽ♡

んん♡

んん♡

て♡



「あゝ元弟子だ  
ひさしぶり〜」

「さ、三蔵…ジヤンヌ…!!  
二人ともなんで…  
サーヴァントは妊娠  
なんか——」

「なんでって…!」

「主人様の子種  
で孕むために  
受肉したからに  
決まってるでしょ♥

「そんなことも見て  
わかんないの?  
てか動画でも言ってた〜」

ぼ

て

ニギ

ニギ

「こらこら、そんな  
言い方したら可哀想  
だよ(笑)  
彼はマスターとして  
未熟なんだからさ」

「あは、そうですね♥  
童貞だし(笑)  
あゝ受肉するのに  
聖杯全部使ったけど  
別にいいよね(笑)」

「いやあ悪いね♥  
キミが必死に集めたモノ  
勝手に使っちゃって…  
でもこのコたちを幸せ  
にするためだから(笑)」

「…」

「あゝ♥あははは♥  
ますたゝゝ」

「ほら、ジャンヌも妊娠  
できてうれしいって♥  
ちよつと何言ってるか  
わかんないけど(笑)」

「じゃ、ジャンヌ…!?  
ジャンヌに何を…」

「いや、動画でも見たでしょ？」

いくら業キメさせても  
死なないからさゝ♥  
つい面白がつてやり過ぎたら  
ホントに脳みそすっかすかに  
なっちやった(笑)」

ぽ♥

ニギ♥

ニギ♥

て♥



「あゝ♥あははは  
ますた〜?」

「ほら、ジャンヌも妊娠  
できてうれしいうつて♥  
ちよつと何言ってるか  
わかんないけど(笑)」

「じゃ、ジャンヌ…!?  
ジャンヌに何を…」

「いや、動画でも見たでしょ?」

いくら業キメさせても  
死なないからさ〜♥  
つい面白がつてやり過ぎたら  
ホントに脳みそすっかすかに  
なっちやった(笑)」

「あ、でも  
セックスだけは上手に  
できるから問題ないよ♥」

「お〜お〜お〜お〜お〜お〜  
する♥お〜お〜お〜お〜お〜お〜」

て  
ニギ

ニギ

ぽ

「……んん……」

「どうして...  
どうしてこんな  
酷いことを...!!」

「酷いのはあなたの性癖でしょ  
ぜんっぜん手えだしてこないと  
思ったららくらくゆくことだったんだ?」

「え.....」

「私たちが酷い目に  
合えば合うほど興奮  
してたんでしょ?  
そのちっちゃい  
おちん○ん暴発させ  
ちゃうくらい!」

「いやあまさか  
カルデアを乗っ取って  
ウインウインの関係が  
築けるとは(笑)」

「この部屋すっごく  
イカ臭いよ(笑)  
私たちの寝取られ動画  
見て何回射精したの  
この変態!」

ぼ

にぎ

にぎ

「君には安心して  
この「たちをお披露目  
できるよ(笑)  
あ、残りの二人...妊娠  
できなかつた組も  
連れてくるね!」

「.....」

「やっほ〜元マスター〜  
元気〜?」

「ぶふ♥旦那はん  
ひゃ〜ぶりやなあ♥」

「おらさつさと歩け  
この役立たず便所ども♥」

「ふ、二人とも……!?」



アツク

ポロ

アツク

「も〜ご主人様ったら  
「ドイ〜♡」

「酒呑はともかく僕は  
不可抗力じゃ〜ん♡  
ねえ元マスターも  
そう思うでしょ？」

「僕だってケツ穴使い物に  
ならなくなるまで頑張った  
けど男の娘ま〇こじゃ  
孕めないんだも〜ん♡」

「言い訳するな(笑)」

「ほら見てよ〜僕のケツ穴♡  
こんなでっかい栓がいる  
くらいガバガバにされちゃっ  
たんだよ♡♡」

アッ

POP

アッ

「.....ん.....」





「そんなんまだマシやろ♡  
うちなんて…ほら見てえ  
旦那はん♡」

「歯あもぜえんぶ抜かれて♡  
角も両方折られてもうて♡」

「ぎ…」

「子宮もぶち抜かれて  
毎日毎日内臓ふあつく♡  
これで餓鬼産めつて方が  
無理な話やわあ♡」

「まあこつちは確かに  
やり過ぎたかかもしれ  
ない(笑)」

「うちが鬼やなかったら  
もうとつくに  
くたばってたわあ♡」

アッ

ポッ

ギッ



「あ、誤解せんといて？  
妊娠自体は何度か  
したんよ♡」

「でもそれも全部ダメに  
されてもーっえ♡」

「つめい…ぶ…」

「ほら、いち、いら、さあん回も♡  
子宮も飛び出したまま戻らへん  
よつになるほど♡  
そらもうめっちゃくちやっくら…」

「酒呑…もじやめ…」

「なんでやの？  
ちゃんと聞いてえな♡」

「うち、もう受肉してるから  
もう取返しつかへんのよ？  
このポロポロにされた身体  
ぜえんぶ…っ♡」

「全部あんたの  
せいやで♡  
旦那はん♡」

アミン

POP

ボッ

「あー！  
くそ〜やられた〜」

「ひひ♡賭けはうちの  
勝ちやなあ♡」

どっちが先に元ますたあ  
を射精させられるか…♡」

「まさか本当に言葉責めだけで  
射精しはるとは思わなかったけど…  
ほら見てみいこの情けない顔♡」

「動画では必死に抵抗してたうちに  
あんなこと言われたんがよっぽど  
堪えたんやろなあ…♡♡」

「ん…ん…」

「ちえ〜僕も堕ちてない  
ふりしときゃよかった  
かなあ〜(笑)」

「ほら二人とも遊び終わった  
ならちやっちやと歩いて(笑)」

「はあ〜♡」 「はあ〜♡」

せーの  
せーの  
せーの

アミン

POP

ボ...

「わかりましたか？先輩が今更何をしたところ私たちもうみんな手遅れなんです♡」

「うう……」

「だからそこで大人しく見ていてください♡  
ご主人様の「コ」を出産するところ♡」

「陣痛促進剤が効いてくるまでもう少しかかるみたいですけど……  
待っていてくださいね♡  
ご主人様だって暇つぶしして待っていてくれるんですから♡」

「え……」

「ほらほら♡  
よそ見しない♡」



「まったく…どうせ墮ちるならもうちよつと早く墮ちればまだ孕めたのに♡無意味な抵抗続けるからこーやって子宮オナホしか使い道なくなつちやつて…まあこれはこれでいいけど♡」

フチュウウツ

ちゅっ

「ほらアスくんはもつと気合入れて舐めて♡腸壁にこべりついてるカスは全部食べていいからね」

「あへえっ♡えへえ♡」

「せやかて元ますたあがこないなへたれとは思わんかつたからあつ♡信じて抵抗してたうちが阿呆やつたわあ♡」

が

しゅ♡

しゅ♡

が

が

「んあ〜♡♡♡」



あ

「おらっっ♡  
脳なししま〇こど  
精液排泄して  
やったぞっ♡  
ありがたく思え」

ドゼジュッ  
ジュッ

「お前」ときのため  
精子様が何億つて数  
死んでるんだぞ♡  
死んで詫びるっ♡」

アウチュウ  
アウチュウ

「子宮オナホも使えなく  
なつたら自書命令して  
やるからなっ♡  
令呪なしでもちゃん  
と従えよっ♡♡」

すあ



「ぶちゅっ♡ちゅっ♡  
ねえ♡ご主人様あゝ  
僕もおゝ♡」

「ん？？」

「ケツ穴お掃除  
終わったから♡  
僕のケツま〇ごも  
ほじってよ♡♡♡」

「……まったん♡♡」

んおら♡  
が

ちゅっ♡  
ちゅっ♡

ドゼジュッ♡  
せゅら♡  
ッ

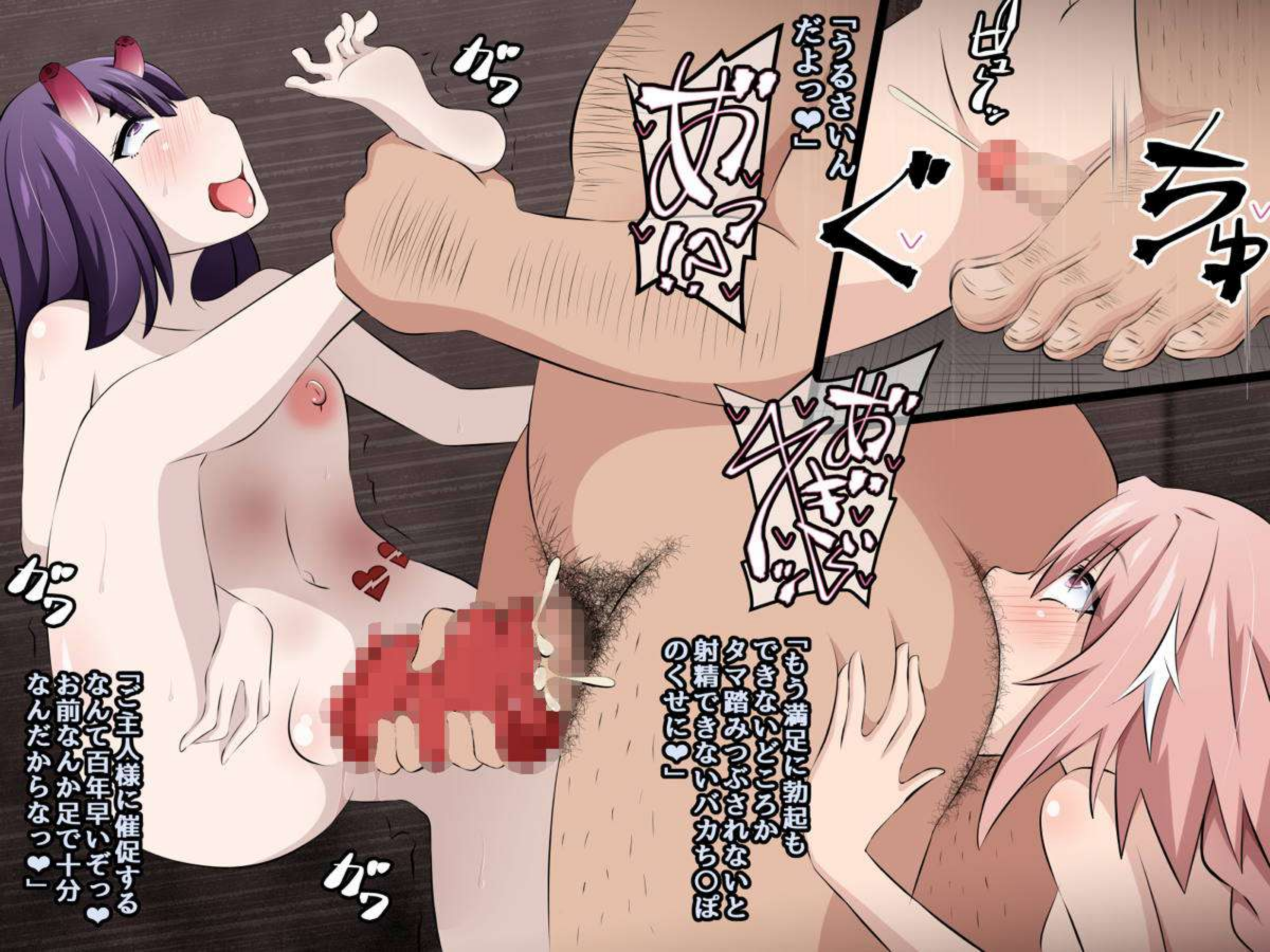
うっ♡  
ん♡  
うっ♡  
が

が

が







うわっ

おっ

「おっおっ  
だよっ♡」

おっおっ

ぐ

おっおっ

「もう満足に勃起も  
できないどころか  
タマ踏みつぶされないと  
射精できないバカち○ぽ  
のくせに♡」

がっ

がっ

がっ

「お主人様に催促する  
なんて百年早いぞっ♡  
お前なんか足で十分  
なんだからなっ♡」

あつ♡

ブニャッ♡

いっ♡

「あはっ♡  
破水キタあっ♡」

「あーほらいよいよ  
みたいですよ先輩♡  
孕めなかつた組は  
もういいですから  
こっち見てあげて  
ください♡」

「……………」



「しゅっ♡ひっ♡らっ♡ん♡  
で♡弟子いっ♡ん♡」

ブル

ブル  
ブル  
ブル

「ロ」

ブル

「おっ  
やっぱり一番乗りは  
三歳ちゃんかあ♡  
孕んだのも一番  
早かったしね♡  
さすが妊娠経験者♡

でも出産は初めて  
だよね？  
ほら頑張っつて  
元弟子も見えてくれて  
るぞ〜(笑)」







「ほほ、頭出てきたぞ〜  
ほら頭張れ頭張れ〜」

みぢっ

海



みぢっ

いっしょ

ブル

おおおお

「大丈夫、三蔵ちゃんなら  
いけるいける！  
ほらせえ〜のおっ♡」

「ほほ、豆出てきたぞ〜♡  
ほら頭張れ頭張れ〜」

おはな

「なに言ってるの？」

おは



あゝえええ

ガッ

ほかめ

ごちや

ガッ

おぎあ おぎあ

ガッ

「おお〜おめでと〜  
第一子♥無事出産  
完了だね〜♥」

「おめでと〜い〜じゅらます  
三蔵さん♥  
獣みたいなアクメ声上げて  
とても僧侶とは思えない  
最低の出産でしたよ(笑)」

おま〇こもぽっかり  
開いたままになっっちゃって…  
これから私も…  
ああなるんですね……♥」

「ほら先輩も馬鹿みたいに  
口開けてないで  
祝ってあげなきゃ(笑)」

「あ……う……う……」





あゝあゝ

がっ

おぎあ おぎあ

ほかあ

ごちや

がっ

がっ

(産まれた…本当に…っ  
サーヴァントから…  
……いや…三蔵から…  
俺の『お師さん』から…っ  
名前も知らない  
おっさんとの子  
が——)

「うんうん……うん」







「あへっ♡えっ♡  
えっ♡えっ♡」

「ほらっ♡直腸から  
ち○ぽで押し上げる  
から頑張っ♡」

「ジャンヌの大好きな  
ヤツもあげるから♡  
おっらいマッシュユ〜♡」

「ほっ♡主人様♡  
アレですわっ♡」

んんん

んんん

ズ  
ゴ  
ン  
ズ  
ゴ  
ン  
ズ  
ゴ  
ン  
ズ  
ゴ  
ン

ズ  
ゴ  
ン  
ズ  
ゴ  
ン  
ズ  
ゴ  
ン



「羨ましいなあジヤンヌさん  
私も少しは嗜みますけど…  
致死量の二十倍濃度なんて  
とてもキメられません♡  
死んじゃいますから(笑)」

「お待たせしました♡  
ジヤンヌさんの大好きな  
脳みそをぶっ壊しちゃろう  
おクスリですよ♡」

チュウウウ

「ほらほらジヤンヌ♡  
即効で脳に回って  
キタでしょ♡?  
そしたらヤクキメ  
ま〇こイキんで♡」

「やっぱリジヤンヌ  
にはコレが必要  
だよねえ♡」

「直腸射精して  
あげるからガキ  
その勢いでガキ  
ひり出すんだよ♡」

「直腸射精して  
あげるからガキ  
その勢いでガキ  
ひり出すんだよ♡」



「♡♡♡♡♡」

がわ

がわ

おっぱいおっぱい  
おっぱいおっぱい  
おっぱいおっぱい

ブジュンッ

アッ

ブルッ

がわ

がわ



ズキズキ

「あゝ最高おゝ♡  
出産させた聖女の  
ケツ穴に精液排泄  
たまんね♡」

キメキメ

が

キメ

「お」

が

「おめりゅんはアナルに挿入  
ジャンヌさん♡  
あれだけキメセクしてた  
くせに元気な」ですよ♡」

ズン

「でも…ふふっ♡  
ドラッグキメキメの  
アナルセックスしながら  
犬みたいな悲鳴上げて  
豚みたいな聖女って…(笑)  
出産する聖女って…(笑)  
最っ低ですね♡」

「ふふふっ♡  
泡噴いて  
喜んじやって(笑)  
自分が出産したって  
わかつてんのかな♡  
コイツ(笑)」

「まあそんなの関係なく  
完全に壊れるまで  
産ませ続けるけど♡  
飽きたらどこまで  
キメられるか試すのも  
いいな♡」

キメキメ

おおき

じゅん

ズン



「じい♡ふん…♡」

「あゝあゝまたお漏らしですか？  
ホンットどうしようもない  
マソ童貞ですね先輩は…♡」

「これでわかったでしよう？  
貴方は自分のサーヴァントが  
他所の男に壊されたり  
出産させられたりするのを  
見て喜ぶクズなんです♡  
一人でも自分の女にしてれば  
違ったかもしれないのに…」

「ぐ…うう…」

「じゃあ…  
最後は私ですね♡  
私をご主人様のコを  
産むところ…  
しっかりと目に焼きつけて  
くださいね♡」





「いやあ…やっぱり  
二人分は重たいなあ♡  
お迎え棒も楽じゃないよ♡」

（くそ…お腹を  
持ち上げて  
わざと見える  
ように…っ）

「ほらっ♡  
じっくり見てください♡  
ここですよっ♡  
先輩が触れたこともないま〇こ  
がご主人様のち〇ぽとばっちり  
繋がっちゃってるところっ♡」

「…ん」

おっぱい

お尻

おまんこ

おまんこ

おまんこ

おまんこ



「不恰好に膨らんだ  
お腹もっ♡  
ほら母乳まで出るよう  
になっちゃって♡」

「あーあとこれー  
タトウーっ♡  
これ魔術とはな〜んにも  
関係ない…ただ二生消えない  
落書きをされちゃっただけ  
なんですよっ♡」

「せ〜んぶ先輩じゃない…  
別のオスっ♡ご主人様に  
支配されちゃった証  
ですっ♡♡」

「ごめんね〜キミの  
後輩ちゃんだったのに♡  
まあ女は孕ませたもん勝ち  
みたいなどころあるから  
もう諦めてよ(笑)」

セツ♡

ヤ♡  
ヤ♡  
ヤ♡

ス♡  
ス♡  
ス♡

ス♡  
ス♡  
ス♡

ス♡  
ス♡  
ス♡

フ♡  
フ♡  
フ♡



「いやあくそれにしても  
マシユは本当にキミのこと  
好きだったんだね♡」

墮とすのに苦労したよ♡  
キミに向けられてた愛を  
催眠でちよつとずつ奪つて…  
キミに対してSツ気が強い  
のはその反動かな(笑)  
ねえマシユ♡」

「はいご主人様っ♡  
もうこんな人どうでもイイ…  
いえ、むしろ虐めたいですっ♡  
先輩の泣き顔みながら  
ご主人様とセツクス最高っ♡  
目の前で私が出産したらどんな  
顔してくれるんだろ…っ♡♡」

「う…ムツク…ムツク」

ハッ♡

ハッ♡  
ハッ♡  
ハッ♡

ムッ♡  
ムッ♡  
ムッ♡

ムッ♡  
ムッ♡  
ムッ♡

ムッ♡  
ムッ♡  
ムッ♡

ムッ♡  
ムッ♡  
ムッ♡



「ほら射精っ♡  
射精してくださいよ先輩っ♡  
私も手伝ってあげますからっ♡」

「あっ♡マシユ…やめ…っ♡」

「はは、悪い後輩だなく(笑)  
元マスターのち○ぽを  
足蹴にするなんて」

「ジャンヌさんたちの出産で  
あれだけ射精してたくせに  
ズルいですよっ♡  
今日何発目とか関係ありませんっ♡」

「やめ…っマシユ…っ♡」

「どうせうすうすい  
シャバシャバ精子なんですからっ♡  
ほら射精してっ♡  
私のために童貞短小ち○ぽ  
無駄打ちしてくださいっ♡」

「マシユ…マシユ…」



「あっ♡ああっ♡」

「あはっ♡射精したあ…  
ホントに射精したっ♡  
してますよねこれ？」

私の寝取られセックス  
で泣きながら射精っ♡  
びくびくしてかわいっ♡」

「あ——」

（くそ…もう何回目かも  
わからないのに…  
今までで一番多く…っ）

「今日初めて感じる刺激が  
そんなに良かったですか？  
足の裏で脈打ってるの感じ  
ますよぉ♡  
……にしてもホントに  
シヨボいですね♡」

「え…」

「確かに…同じ男として  
これは擁護できないなあ(笑)」

ビクビク

ビクビク

ビク

ビクビク

ビクビク

ビクビク

ビクビク

「ちんぽの  
ホントの射精っで  
うるのは——」

ビクビク

「いじわる  
んだよっ♡」

おっぱい♡

「=」

ド  
ン





あゝあゝ

おア

「ぶ♡ぶふう♡♡  
ひひ、わかつた？  
メスを墮とすには  
これくらい勢いが  
ないとね♡」

「ぴったり閉じた  
子宮口を無理矢理  
こじ開けるくらい  
じゃないと—」

ぶぶぶ

グキッ

「お♡ようやく  
陣痛始まったかな？  
それじゃあ  
メインイベント…」

「あ…」

「マシマの丑産♡  
始めるよっか♡」

ドクン

ドクン

ゴトゴト  
ビュビュ  
ビュビュ

ビュ





おっぱい  
おっぱい

「は〜い景気よく破水  
もキメたところで  
いよいよ始まりま〜す  
マシユの出産ショー〜♥  
元マスターくんは  
特等席でご覧ください  
さ〜い(笑)」

「.....」



「せんぱい…せんぱい…  
せんぱい…  
いいいい…  
いいいい…  
いいいい…  
いいいい…」

ブル

「ほらもう一息〜  
もうちょっとで  
大好きだった先輩に  
僕たちの愛の結晶  
見せつけてあげれる  
んだよ〜♡」

「あっ♡あっ♡  
あっ♡あっ♡  
あっ♡あっ♡」

「んんん…  
んんん…  
んんん…  
んんん…」

ブル

「頑張れ頑張れ〜  
頭出てきたよ〜♡  
元マスターくん  
も応援してあげて♡  
カワイイ後輩が  
頑張つてイキんでる  
んだから(笑)」

みぢん

ブル

「んんん…  
んんん…  
んんん…」



あぁあぁあぁ

んっ

んっ

♡♡

おおお

がッ

「いや〜感動だなあ♥  
無責任に遺伝子  
ませませしまくった  
結果がこんな必死に  
出てくると  
命を支配してやった  
って感じするよね♥

どうかな元マスター  
くん♥  
僕が遊びで孕ませた  
命の重み感じて  
くれるかな?(笑)」

おおお

がッ

「は〜い♥  
マシユちゃんも無事  
第一子出産完了  
しました〜♥

拍手〜…は  
できないか(笑)  
拘束されてる  
もんね(笑)」

がッ

どちゃあ

おおお

「あ、あ……」



「ひひひひ♡  
みんな喜んでボクに  
命を捧げるメスマゾ  
性処理便所にね♡」

「うー」

これでわかったかな？  
みんなボクのモノにな  
ったんだって

だっ

「見てこの  
だらしないアクメ顔♡  
人のコト言えないよね♡(笑)」

あ

がっ

どちゃあ

おおきや

「もちろんマシユも  
他のみんなも全員  
死ぬまで孕ませ遊び  
させてもらうけど♡  
もう今更どうしよう  
もないんだよ♡」

がっ

あ

「ふう〜終わった終わった  
うわ、なんだこれ  
足の踏み場もないな(笑)」

「まったく出産〜のさだ  
だらしないぞ〜♡  
みんな英霊なんだから  
しっかりしないと(笑)」

「.....」

あ

が

「まあいいや  
じやあ僕はもう寝るから  
後はよろしくね〜  
マシユ♡」

は

が

□

せ

せ

は

お

が

ト

が

「ふう〜う〜♡  
ははあ〜い  
ご主人様〜♡」



「はあ…はあ…  
せ、先輩…♡」

「…♡」

「これで  
思い知ったでしょう？  
ご主人様の言った通り  
全部手遅れだって♡」

あ

が

「私たちみんない  
心の底からご主人様以外は  
どろでもいって思っ  
るんです♡  
今さら助けてなんか  
欲しくないんですよ♡」

せせ

せせ

おお  
おお

が

ト

が

「…♡」



「ふ…ふふふ♥  
泣かないでくださいよ(笑)  
先輩にもきちんとして  
お仕事をあげますから♥」

「え……」

「し、仕事……」

「先輩にはこの『私たちの  
子育てをお願いします♥』

童貞でもできる  
カンタンなお仕事  
でしょ♥」

「主人様が私たちに  
無責任に仕込んだガキを  
一生懸命育てるんです♥」

「くすくす♥  
先輩にお似合いの  
みじめなお役目です♥」





「あ、拒否権は  
ありませんから♡  
気づいてないかも  
しれませんけど  
先輩ももう洗脳済  
ですよ♡」

「……」  
がっ

「その拘束はもういらぬ  
お解いてあげますから♡  
よかったですね♡」  
「うら放題ですよ(笑)」

「早速働いてください♡  
これから一生、子育て係として  
わかりました？ほら返事は？」

「……」  
おは

おは

せせ

せせ

がっ

ト

がっ

□

あ



「あ、拒否権は  
ありませんから♡  
気づいてないかも  
しれませんけど  
先輩ももう洗脳済  
ですよ♡」

「……」  
がっ

「その拘束はもういらしませんね♡  
解いてあげますから……」  
よかったですね♡「り放題ですよ(笑)」

がっ「早速働いてください♡  
これから一生、子育て係として♡  
わかりました？ほら返事は？」

がっ

ト

がっ

せせせ

せせせ

おおお

「……」  
がっ





それから……

おおお  
おおお

「.....」

「はあ〜い♡  
ミルクの時間  
でちゅよ〜♡」

「んん〜♡  
ちゅぱちゅぱ  
ママあ〜♡」

「はいはい♡  
おっぱい飲みながらママと  
セックス上手でちゅね〜♡」

おっぱい♡

おっぱい♡  
おっぱい♡

おっぱい♡  
おっぱい♡

おっぱい♡  
おっぱい♡

おっぱい♡  
おっぱい♡





おおきや  
おおきや

「ええと...  
実はこの「ど...」

「あ〜言っとくけど  
母乳ならあげないからね〜  
あたしのおっぱいは  
ご主人様専用なんだから♡」

「そのガキにはいつも  
みたいに粉ミルクでも  
飲ませときなさい(笑)」

ギョーッ  
ギョーッ

ごきぬ  
ごきぬ

ジュン  
ジュン

ジュン  
ジュン

ジュン  
ジュン





「215500」



は

ク

ト

ボ

ク



**【ご注意】**

酒呑ちゃん編には歯なし描写があります。  
(ファイルNo.【201】および【602】)

苦手な方はご注意ください。



ぬはぁあ

あ

ギン

ギン



「んん〜♡  
やっぱりいいなあ  
酒呑ちやんの  
お口ま〇こは♡  
ぬっちよぬっちよの  
口腔内で感じる  
こりこりした歯茎  
の感触♡」

ズンッぽん!

ズンッぽん!

「元マスタークんの  
ち〇ぽも一回くらいは  
しやぶつてあげれば  
いいのに♡  
知ってるよ〜?  
最近ず〜っとオナ禁  
させて遊んでる  
でしょ(笑)」

ズンッぽん!

「喉奥に至ってはもう  
造りが人間と違うし♡  
ち〇ぽに絡みつく〜♡

ズンッぽん!

まさにち〇ぽしやぶるため  
に産まれてきた生物♡  
これがあるから酒呑ちやんを  
廃棄にはできないんだよな〜♡」

「ひどいなあ〜  
子育てとか掃除とか  
頑張ってくれてるのに  
粗チンだからって  
虐めるなんて(笑)」

ズンッ

ズンッ

(だってえ♥旦那はんったら  
うちのセックス見て  
オナニーばかりしてるん  
やもん♥  
気持ち悪いったらないわあ(笑))

「ぶふふ♥  
あの生意気だった酒呑ちゃん  
がずいぶん従順になつて♥  
何考えてるか表情でわかるなあ(笑)

毎日毎日鬼退治して  
叩き込んだかいがあつたよ♥」

「ぶふふ♥  
あの生意気だった酒呑ちゃん  
がずいぶん従順になつて♥  
何考えてるか表情でわかるなあ(笑)

「あゝんなちのちやい  
ちのぼ見るともいざせ  
やっぱりちのぼは  
ご主人様みたく  
しやぶりごたえが  
ないとお...♥♥」

「あゝんなちのちやい  
ちのぼ見るともいざせ  
やっぱりちのぼは  
ご主人様みたく  
しやぶりごたえが  
ないとお...♥♥」

「あゝんなちのちやい  
ちのぼ見るともいざせ  
やっぱりちのぼは  
ご主人様みたく  
しやぶりごたえが  
ないとお...♥♥」

「ちのぼの大きい男  
が生物として上位種  
だつてねっ♥  
おら射精すぞっ♥」

「あゝんなちのちやい  
ちのぼ見るともいざせ  
やっぱりちのぼは  
ご主人様みたく  
しやぶりごたえが  
ないとお...♥♥」

「あゝんなちのちやい  
ちのぼ見るともいざせ  
やっぱりちのぼは  
ご主人様みたく  
しやぶりごたえが  
ないとお...♥♥」



アキハ  
キキキ  
アキハ

「おっ♡おほお〜  
すげえ吸い付き♡  
さすが酸素より精液が  
大事なフェラ奴隷♡」

そうそう♡ちやくんと  
一滴残らず吸い出してね♡  
それが今日も酒呑ちゃんの  
ご飯だからね♡」

ビュル  
キュル  
キョキョ  
キョキョ  
キョキョ

ト

ト  
ユツ



あはあ

ズルッ

ぐちよお

お

はあ

「あ、お口に残った精液は元マスタークンに見てもらったら飲み込んでいいからね  
いつもみたいに(笑)」

「はいお粗末様でした〜  
今日も朝勃ち〇ぽ  
愛情フェラで起こしてくれてありがとね〜♡」

「ふんっ♡  
ふんっ♡」

「あれっ?」

元マスター

何してんの?

ジャンヌのガキ

なんか抱えて」

「あ、いや……  
ジャンヌを探して  
るんだけど……」

ズ  
ズ

ズ  
ズ

ズ  
ズ

ズ

「ジャンヌう?」  
「なんなんだボクとご主人様の  
アナルフアックでシコりに  
来てくれたんじゃないのお?  
…あ♡今はオナ禁中だっけ♡  
大変だね(笑)」

「……」

「まっボクもあんま人の  
ゴト言えないけどね♡  
見てよこのタマタマ♡  
完全に潰されちゃって  
もう勃起もできなく  
なっちゃった♡」

「前立腺  
挟られても  
種無し精液  
垂れ流す  
だけ♡」

ゴ

ズ  
ズ

「え、えつと…」

「あ、ジヤンヌ  
だっけ(笑)  
あのヤク中女  
ならいないよ♡」

「え…!？」

「あ、へーきへーき  
ちゃんと生きては  
いるから(笑)  
ただフレンドに  
貸し出してるだけ♡」

ズ  
ズ

ズ  
ズ

ズ

ズ

「あ、  
射精そ…♡」  
「だからその「に母乳  
あげるの」は諦めなよ♡  
てかあんな薬漬けの身体  
から出た母乳あげない  
方がいいよ(笑)」

「ジヤンヌにすっごくいい執心の  
クツガキマスターがいてさ♡  
あんなヤク中女のどこがそんなに  
いいんだか知らないけど♡  
クスリで壊して遊ぶのにも  
飽きたから貸してあげてるん  
だって♡  
ご主人様ったら優しいよね♡」

ゴ

ゴ

「射精すぞお、  
直腸に…♡」

「あゝ♡♡」

あゝ♡♡

アハハ♡♡  
ド

アハハ♡♡

アハハ♡♡

アハハ♡♡

「おらっ♡♡  
しっっかり飲み干せよっ♡  
ご主人様のありがたっ♡♡  
精液だぞっ♡♡」



「ふう〜  
射精したピッ  
射精した♡

うわ、ヒドイな  
こりや(笑)」

「あっ♡  
あ〜ご主人様  
の精液が…♡  
漏れちゃう〜」

ズルっ

ピッ

ピッ

ドロっ

「使う度にぐちやぐちやになっ  
てくなくこのケツ穴♡  
まだ気持ちいいからイイけど  
こりや使い物にならなく  
なるのも時間の問題かな(笑)  
男の娘ま〇こはすぐにガバガバに  
なっちゃうからね〜♡  
あ、そうなったらキミに  
回してあげてもいいよ?  
アスくんさえよかったらだけど♡」

「え〜絶対ヤダ〜♡  
そうなったら廃棄にして〜」

「……………」

「あゝ夢みたいだった♡  
ぜんっぜん召喚に  
応じてくれなかつた  
ジャンヌとこーやって  
毎日セックスして  
過ごせるなんてっ♡  
あゝジャンヌっ♡  
ジャンヌっ♡」

「ジャンヌっ♡  
愛してるよ♡  
ジャンヌうっ♡」

「はっ♡はっ♡  
はっ♡はっ♡」

がっ

がっ

がっ

たろっ



「あーっ♡  
うーっ♡  
うーっ♡」

ぢゅ

「ねっ♡  
わかるでしょう♡  
だから♡ねっ♡」

「んんん♡  
んんん♡」

「孕んでっ♡  
今度は僕の♡」

「ああ、可哀想にっ♡  
あんなおっさんに  
葉漬けにされて  
壊されちゃうなんて♡

ぢゅ

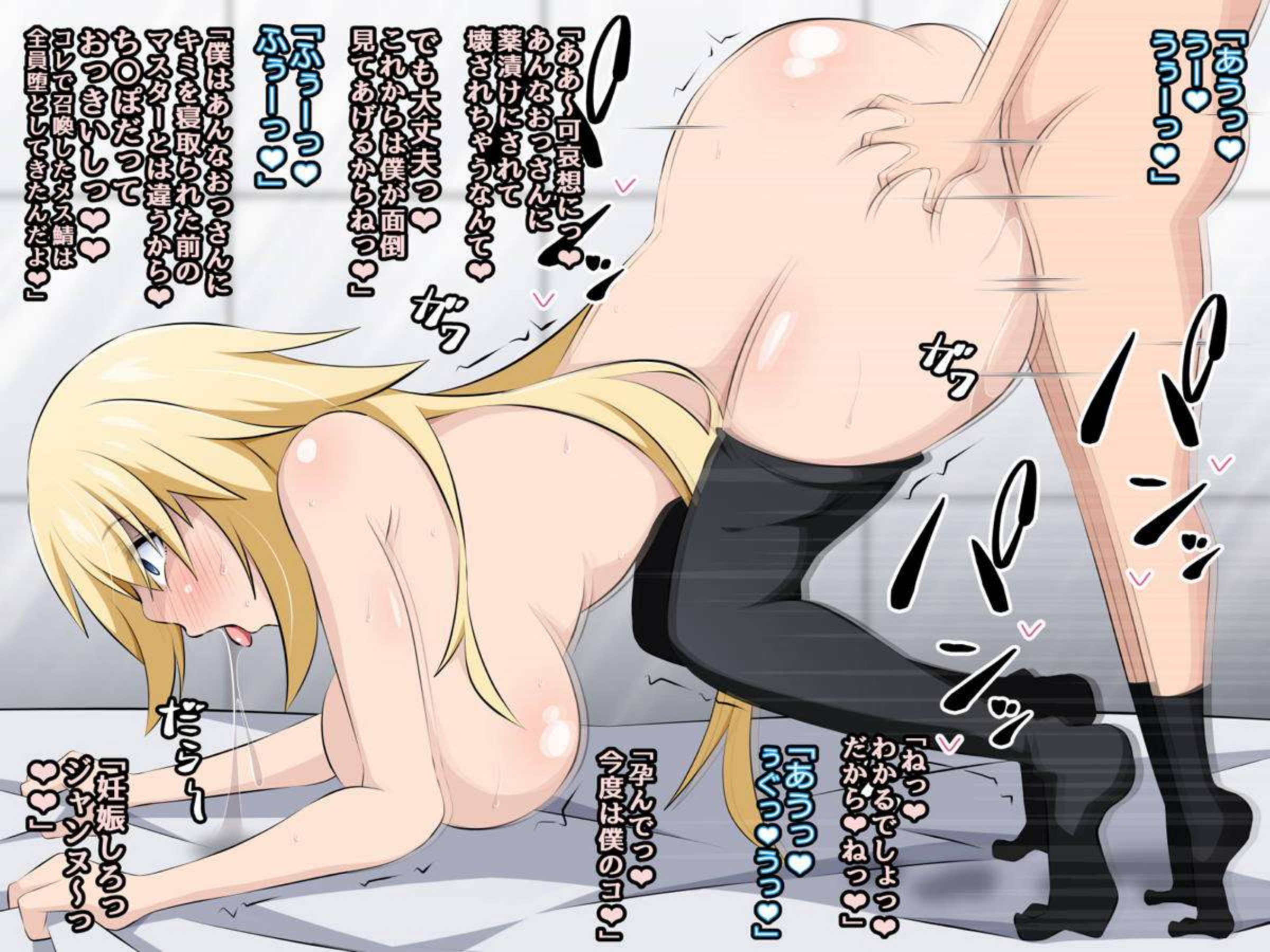
でも大丈夫っ♡  
これからは僕が面倒  
見てあげるからねっ♡」

「ふうっ♡  
ふうっ♡」

「僕はあるなおっさんに  
キミを寝取られた前の  
マスターとは違うから♡  
ち○ぽだって  
おつきいしっ♡♡  
コレで召喚したメス鯖は  
全員堕してきたんだよ♡」

だっ

「妊娠してるっ♡  
ジャンヌっ♡」





「んんんん」

あな



あな

んんんん

「あゝ最高おゝっ♡  
ジャンヌと子作り♡  
堕ちた聖女孕ませるの  
気持ち良過ぎるゝっ♡  
中古のくせに今まで  
ヤツたどの鯖よりイイ♡」

お♡

せつっ

せつ♡

お♡  
う♡  
う♡  
う♡

「あ♡安心してね♡  
ウチのカルデアにも  
子育て係がちやんと  
いるから♡  
こっちも元マスターが(笑)  
だからほこほこ  
産んで大丈夫だよ♡」

せつっ  
お♡

「ジャンヌの好きな  
お薬だつて好きなか  
あげるからねっ♡  
おじさんから貰って  
るから♡」

ひひひ♡  
このまま絶対僕のモノ  
にしてやるからな♡  
どうせ飽きられてるでしょ？  
何ならこっちの鯖と交換して！」

「あ、せんぱあ〜い♡  
遅いですよ？  
私が呼び出したら  
十秒以内に  
かけつけなきゃ(笑)」

「……うめ〜…」

「やつほ〜元マスターくん♡  
またまた会ったね〜(笑)」

「つし主人様から  
聞きましたよ？  
みなさんのところ  
回ってたんですって？  
私だけ仲間外れなんて  
ヒドイじゃないですか♡

「私、先輩に見せたいもの  
があるの♡♡♡」

「見せたいもの……♡」

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ



「じゃあさん♡  
私、二人目が  
デキました♡♡」

「」

「えっ♡♡  
パチパチパチ」

「スゴイでしょう？  
私が一番乗り♡  
お腹も引っ込んだばかり  
なのにこんなに早く  
デキるなんて♡

きつと私とご主人様の  
相性がばっちりって  
ことですね♡」

「いや排卵薬乱用した  
からじゃないかな(笑)」

ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ

ズッ

ズッ

「……あ……」

「アホ面してないで何か言ってくたさいよ♡  
どうですか？  
自分がオナ禁子育て生活させられてる間に私たちがヤリまくって二人目作られちゃった気分は(笑)  
これも産まれたら先輩が育てるんですよ？」

「いめんね〜  
マシユがどうしてもすぐ二人目欲しらつて言うからさ〜♡」

「ほら〜  
妊娠したカワイイ先輩に言うことがあるでしょ？  
ほら早く〜」

「……お、おめいじや……」



ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

「♡の♡」



「あ〜最高お〜♡♡♡  
射精捲るう〜♡♡♡」

「いっ♡わん♡♡♡  
あ♡♡♡ち♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

「やっぱり♡♡♡  
先輩の前だどご主人様の射精  
いつもよりすごい♡♡♡♡♡♡  
先輩の惨めな寝取られ宣言で  
ご主人様の精子元気に  
なってるう〜♡♡♡」



ゼンッ

ゼンッ

ト  
アセセ  
アセセ  
アセセ

ボッ

「はあ…♡はあ…♡  
あくよかつたあ…♡  
最高ですよ先輩♡  
やっぱり先輩は  
寝取られの才能が  
ありますね♡」

「……」

「あ、じゃあもう帰って  
らさすよ(笑)」

「え……」

トコトコ

「だってセックスの着に  
その負け犬顔が見たかった  
だけですから♡  
後は私とご主人様だけで  
楽しめますから、  
子育てに戻ってくださる♡」

「……あ、あ……」

ゼツ

ト  
アセセ  
アセセ  
アセセ

ポッ

「んっなんですか〜？  
あゝもしかして  
オナニーさせてもらえ  
ると思つてました？(笑)」

くすくす♡  
ダメに決まってるわよ♡  
まだ一ヶ月なの♡

私は先輩がちっちゃい  
役立たずち○ぽ  
おっ勃たたせながら  
我慢する姿が見たいん  
ですから(笑)」

「身の程知らずな要求した  
罰としてオナ禁あと  
一ヶ月追加です♡」

苦勞して射精我慢できる  
ように馴けてあげたんです  
から(笑)  
頑張つてくれたわいな〜」

「……」

トコトコ

ゼツッ

ト  
アセアセ  
キュキュ  
ツツ

ポッ





「ん？なんですか？  
あ、もしかして  
オナニーさせてもらえる  
と思ってました？(笑)」

くすくす♡  
ダメに決まってるでしょ♡  
まだ一ヶ月なの♡

私は先輩がちっちゃい  
役立たずち○ぽ  
おっ勃たたせながら  
我慢する姿が見たいん  
ですから(笑)」

「身の程知らずな要求した  
罰としてオナ禁あと  
一ヶ月追加です♡」

苦勞して射精我慢できる  
ように馴けてあげたんです  
から(笑)  
頑張ってくださいね♡」

「……………」

トビタテ

ゼワッ

ト  
セセ  
キュッ  
キュッ  
キュッ

ポッ

「んっなんですか〜？  
あ〜もしかして  
オナニーさせてもらえる  
と思ってました？(笑)」

くすくす♡

ダメに決まってるよ♡

まだ一ヶ月なの♡

私は先輩がちっちゃい  
役立たずち○ぽ  
おっ勃たたせながら  
我慢する姿が見たいん  
ですから(笑)」

ゼワッ

ポッ

どろろ

「……」

「身の程知らずな要求した  
罰としてオナ禁あと  
一ヶ月追加です♡」

苦労して射精我慢できる  
ように馴けてあげたんです  
から(笑)  
頑張ってくださいね〜」

ト  
アセアセ  
キュン  
キュン  
アセアセ  
アセアセ

「……」



BAD END  
おしまい♥